

観の眼



目次

巻頭言／第19回世界剣道選手権大会 日本代表男子監督 東 良美	歴史探訪	9	愛知県学校剣道連盟だより	20
八段昇段者の紹介	各部門だより		東海学生剣道連盟だより	21
大会結果	居合道だより	10	地区だより	22
佐賀国民スポーツ大会	杖道だより	11	役員	28
第59回全日本居合道大会五段の部優勝	警察だより	12	おめでとう 昇段結果	29
第70回東海四県対抗剣道大会	刑務官だより	14	審査料・登録料	34
第30回東海四県対抗女子剣道大会	実業団だより	16	愛知県剣道連盟ホームページ・五地区剣道連盟所在地	35
第23回全日本選抜剣道八段優勝大会	道場連盟だより	17	編集後記 スタッフ写真	36
第56回愛知県春季少年剣道大会	中体連だより	18	令和7年度事業計画	37
	高体連だより	19	資料室所蔵史料紹介	

第49号



一般
財団法人

愛知県剣道連盟

第十九回 世界剣道選手権大会

世界に魅せる日本の攻撃剣道



日本代表
男子監督
東 良 美

開催日 二〇二四年

七月四日～七月七日

開催都市 イタリア・ミラノ

私は、二〇〇一年（平成十三年）に、愛知県警の監督を務めさせていただき、選手たちの気持ちを汲みながら指導するという「コーチング」を学ぶきっかけを与えていただきました。そこから、全国の強豪高校や道場へ足を運び、先生方がどのようなことを心掛けて指導しているのかを勉強したことが、現在にも大変活きてきています。

二〇二二年初め、古川和男全日本強化本部長より第十九回世界大会男子監督としてチームをまとめあげてもらいたいと要望があり、気の引き締まる思いと、プレッシャーが交錯していたことを覚えています。そして、まずは組織づくりが大事だと思い、コーチ二名を寺本将司先生と内村良一先生に



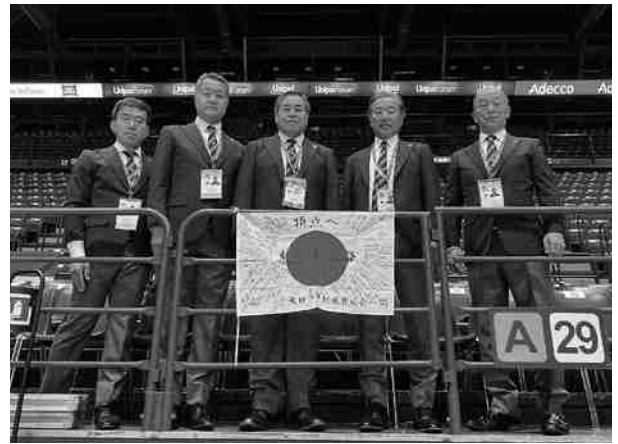
お願いしました。

選手たちに求めたことは、攻防一致の剣道。攻撃剣道から一本を取り切る剣道です。そして、それを実現する土台として、基礎基本の徹底した稽古を積み重ねました。礼法からきちんとすることも基礎基本のひとつです。そこをお



ろそかにしないことで周りからも応援してもらえるチームになります。素振りの一本一本から徹底していき、稽古はスマートフォンで録画をして見返し、気づいたところがあれば指摘をします。本人も動画を見ることが納得ができ、すぐに取り組むというようにしました。





世界大会の全日本男子チームは各所属団体ではエース格の選手ばかりですが、基礎基本から逃げてはいけないと言いつつ続けました。彼らも徹底して稽古に取り組んでくれたと思います。その結果、国内外どこへ遠征に行っても自信を持って戦えるメンバーになったと思います。とくに、主将の安藤選手は、アメリカ遠征の際（二〇二三年十二月）、私とよく話し合って、監督と主将の強固な信頼関係を築き上げ、内面の変化とともに、絶対的な日本チームの大黒柱と成長してくれました。

二〇二四年六月の最終合宿は愛

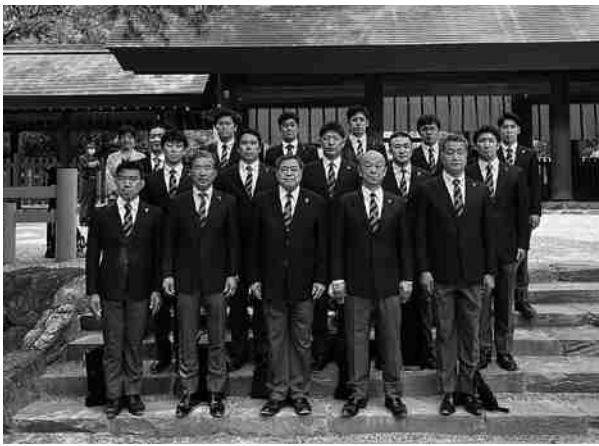
知県で実施しました。合宿は毎回、違う場所で行ないましたがその場には、多くの地元の少年剣士も観に来ていただき、選手たちの励みとなりました。稽古後には、選手と少年剣士が触れ合う場面もあり、子どもたちからいただいたエネルギーで選手団は、「いよいよ決戦のときがきた」という士気も高まっていったかと思えます。さらに、二〇二四年三月、私が日ごろ稽古をしている天白少年剣道育成会卒館式でいただいた寄せ書きの日の丸は、日本選手団席に掲げさせていただき、「頂点へ」という言葉が選手の勢いを後押ししてくれることになりました。子どもたちには感謝です。

世界大会では、チームのモットーにしていた「攻防一致の剣道、



攻撃剣道から一本取りきる」ことが徹底され、まず個人戦において、若手の選手が勢い良く活躍し、優勝星子選手、二位松崎選手、三位大平選手、木村選手で入賞を占めることとなり、第九回フランス大会以来三十年ぶりの快挙を成し遂げてくれました。

最終決戦の団体戦においても、初戦から強化訓練で培ったことが徹底され、準決勝戦ではヨーロッパ最強のフランスチームに五対〇で快勝し、優勝への確固たる自信となりました。そして、決勝戦は前回大会同様、最大のライバルである韓国との一戦であります。



全世界が注目する大変なプレッシャーの中においても、日本の選手は強い精神力をもつて最後まで攻めの剣道を貫いてくれ、最後は副将戦の竹ノ内選手の素晴らしい「面」で勝利し、五大会連続十七回目の優勝を成し遂げることができました。

世界に魅せる日本の攻撃剣道を最後まで貫いてくれた選手達に感謝すると共に、愛知県警選手時代から公私にわたってご指導を頂いた愛知県剣道連盟の諸先生方、諸先輩方、そして、大会前に激励を頂戴した方々に、衷心よりお礼申し上げます。有難うございました。



八段昇段者の紹介

清水 基史
(愛知県警)

令和六年八月十日、名古屋での八段審査で合格をさせていただきました。これも、愛知県西尾市で幼少から竹刀を握り、西尾高校から愛知学院大学へ進学したことから、愛知県の先生方からの熱いご指導のおかげと感謝申し上げます。

八段を意識し始めたのは愛知県警察剣道特練員の現役を退き、七段に合格した四十歳を手前にした頃です。当時続々と特練OBの先生方が合格されていく姿をみて、私もいつかはと思うようになりました。しかし、年齢が受験資格に近づくにつれて容易ではない想像以上の高い壁だと思いは知らされました。

合格されていく先生方が何をされていたのかを思い出し、共通する基本をもう一度やり直そうと取り組みました。幸運にも愛知県の先生方は様々なアドバイスをしてくださる方が多く、また間違っていることに対しては直球でご指摘をしてくださり、大変ありがたいことでした。

審査では常時攻め込み、その中で打ち切ること、誘うこと、捌くことの三つを徹底しようと臨みました。

二次審査の一人目は全くうまくできず、二人目の初太刀も乗られて前回の京都審査の繰り返しかと頭をよぎりましたが、最後の最後まで自分を出し切ることに集中しようと切り替えました。少し強引で相手の方には失礼な立ち合いであったと思いますが、躊躇をして礼を終えた時には試合であったかのような感覚だったと思います。これは先生方に稽古で掛かせていただいた気持ちと、現役の特練員との稽古で反射的に身体が動ける状態にあったからだと思います。

満点の審査内容ではなく、今回は幸運であったため、これからが本当の修行だと感じています。併せて愛知県剣道連盟発展のため、お役に立てるように一日一日を大切に精進し続ける所存です。今後も皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



八段合格の思い

大崎 保
(尾南地区)

私は五十歳頃から、三十年に亘って林邦夫先生に師事し、「器を変えよう」の合言葉の下、剣道の基本的事項、動ける身体づくりのストレッチ運動、更に最も大切な人間学を学んで参りました。

永く続けてこられたのは、剣道研究会（当初、中・高年剣道研究会→剣道&ストレッチ研究会→剣道研究会と名称変遷）で学ぶ多くの学者者が「林剣道の魅力」に共感し多くの仲間が相互に協力し、研鑽努力に努めてきたためだと思います。

この間、星城大学での朝稽古で、東良美先生からのご指導、学生の皆さんとの稽古のおかげで力をつけてきました。

会を重ねて八十歳頃でしょうか、八段に向けた林先生主宰の「月一研究会」にも参加しました。

ここでは、八段審査でどのような立合いが望ましいのか、先生の講話と実技などを学び、今まで知らなかったことが分かってきました。

つまり、林先生が示された、八段受審に必要な要素は次の通りです。

① 100%の有効打突

② 位、気品のある構え、姿勢態度（所作動作）

③ 主導権、指導権を取る

④ 崩れない↓不動心

⑤ ムリをしない

審査二ヶ月前になった頃、林先生から、「あなたの剣道は強すぎるから、近藤利雄先生のような柔らかく力を入れない剣道に替えてはどうか」との提案を頂きました。

試行錯誤しつつ短期間に何かを掴みました。

そして、八月十一日の審査では、二次審査直前に、諸先生方から貴重なアドバイス頂きました。審査員の先生方には良く観て頂こうと真剣に臨み、緊張感のない呼吸法により演武しました。結果的に、林先生教えの五項目、これが出来たと思います。

立ち会っている時には無意識でしたが、合格！と知った時には「奇跡！」と思いました。

こうして、八十一歳九ヶ月の合格に關し、中・高年剣士の皆様からは、希望の星（笑）などと言われているようです。今後の剣道は、基本重視の啓蒙・実践と日本剣道形研鑽の必要性について、注力したいと考えています。



●佐賀国民スポーツ大会について●



総監督
大河内 鉄彦

令和六年九月二十八日（土）から三十日（月）の三日間、佐賀県神崎市神崎中央公園体育館で第七十八回国民スポーツ大会「SAGA二〇二四」が開催された。

また、本年度から「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」と名称が変更され、「新しい大会へ、すべての人にスポーツのチカラ」をメインメッセージに掲げ、新たなスタートを切った。

成年女子（第五位入賞）

各地区ブロック大会を勝ち抜いた十六チームによるトーナメント試合一回戦 青森県と対戦し、一対一の本数勝ち

先鋒 しかけ技で攻め続けたが、有効打突なしの引き分け

中堅 持ち味を発揮し、見事な面の二本勝ち

大将 序盤から攻め続けるも、惜しくも面の一本負け

二回戦 福岡県と対戦し、一対〇の負け

先鋒 一進一退の攻防で、小手を先取するも、面を取られ引き分け

中堅 全ての技を出し攻め続けたが、引き分け

大将 互角の攻防を続け、最後まで全力で戦ったが、面の一本負け

試合内容は、紙二重の接戦だったが、各々が実力を発揮し、第五位入賞を果たした。

成年男子

一回戦 埼玉県と対戦し、二対〇の負け

先鋒 得意技の面を先取するも、終了間際面を取られ引き分け

次鋒 相手の攻撃に対し、打突の機会を狙っていたが、面と小手を取られ二本負け

中堅 実力が拮抗しており、一瞬の隙をつかれ面の一本負け

副将 面を先取するも相手の攻撃に対し、終盤、面を取られ引き分け

大将 チームは負けたが、堂々たる試合内容で引き分け

少年男子・女子

東海ブロック大会前には、選手、監督、コーチ、スタッフ等、一丸となつて、技術、精神面とも順調な仕上がりを果たした。

結果は、男子三敗、女子一勝二敗で

本大会に出場できなかった。

要因として、有効打突の要素である打突の機会、また強さと冴えに、少しづれが生じ、うまく連動し、完結されなかったように思われる。

来季は、これらの要因を払拭し捲土重来を期す。

終りに、時には厳しく、時には温かくお力添えをいただいた強化委員の先生をはじめ、愛知県剣道連盟に深く感謝を申し上げ、私の報告といたします。

総監督 大河内 鉄彦

成年男子 先鋒 近本 太郎

次鋒 久田松雄 一郎

中堅 脇蘭 豪

副将 浦門 剛

大将 中村 隆信

先鋒 東堅 嘉伶

中堅 迫 美樹

大将 今道 恵子

成年女子

先鋒 東堅 嘉伶

中堅 迫 美樹

大将 今道 恵子



吉野ヶ里歴史公園

● 第五十九回 全日本居合道大会五段の部優勝 ●



西川 貴都
(尾張)

愛知に戻り稽古をしています。

令和六年十月十九日、東京武道館にて開催された第五十九回全日本居合道大会に愛知県の五段代表として出場させていただき、優勝することが出来ました。

居合道は小学校五年生から祖父の影響で始め、東海大学に進学後は居合道部で四年間活動し、現在は就職を機に



全日本剣道連盟提供



全日本剣道連盟提供

本大会に臨む上で気をつけたことは、昨年の結果を気にすること無く、稽古を行うことでした。一般的に言うプレッシャーはあまり感じませんでした。だが、昨年優勝者として恥じのない演武をしたと思っていました。幸いなことに代表メンバーの体制が前回大会から変わらないこともあり、良い意味で「いつもと同じ」という気持ちを維持することが出来ました。

強化稽古では、仮想敵の意識を強く持つことで、型を守ることは勿論ですが、型だけでなく、「敵との掛け合いのある演武」を目標としました。今年

年は昨年よりも試合の中で自分の思う演武が出来た箇所が増えたように感じています。少しは前進出来ているのではないかと嬉しく思いますが、決して現状に満足しているわけではないため、これからも更に理合を意識した稽古を積み、見ていただく方に仮想敵がより強く見えるように、仮想敵に合わせた間を感じてもらえる演武を目指していきたいと思っています。全日本大会は今回で四度目の出場となりましたが、やはり特別緊張する舞台であると実感しました。特に一試合目は緊張のためか身体が思うように動かないことが多くあります。いつでも、どんな時でも技を抜ける余裕を心につけて、心身の鍛錬を積んでいきたいと思っています。今後も居合道に真摯に向き合い、今までお世話になった先生、切磋琢磨している仲間

に感謝しながら精進いたします。そして、先生方に指導いただいたこと、学ばせていただいたことを少しでも恩返しできればと思っています。最後に愛知県剣道連盟の皆様から頂いた応援に心より感謝御礼申し上げます。ありがとうございました。

第七十回 東海四県対抗剣道大会、 第三十回 東海四県対抗女子剣道大会結果



監督
倉成 健治

期日 令和七年三月二日（日）
会場 岐阜県関市
「アテナ工業アリーナ」

女子は五名の団体戦

選手構成、十八〜二十九歳二名、

三十歳代一名、四十歳代一名、五十歳代一名の選抜。

男子は十二名の団体戦

選手構成、十八〜

二十九歳三名、三十歳代三名、四十歳代三名、

五十歳代三名の選抜。

警察官、刑務官、教職員

各三名以内の年齢順で構成された試合です。

初戦は、静岡県と対戦

女子は、先鋒一本勝ち、

次鋒一本負け、中堅・副将と一本勝ち、

大将引き分けでした。

結果は、三勝一敗一

引き分けで愛知県の勝ち。

男子は、先鋒から四将まで六勝一敗

の大差でチームの勝敗を決めて、

結果は、七勝一敗四引き分けで愛知

県の圧勝。

男女とも素晴らしい立ち上がりで昨

年に続き男女優勝の手ごたえを感じる試

合結果でした。

第二戦は、三重県と対戦

女子は、先鋒一本負け、次鋒二本負

けの連敗を喫してしまい三重県に完全

に流れを持っていかれましたが中堅が

二本勝ちして反撃するも、副将、大将

が引き分けられてしまいました。

結果は、一勝二敗二分けで愛知県が

負けました。

男子は、立ち上がり先鋒が一本負け

をしましたが次鋒、十将と連勝して勝

ちの流れを取り返すとその勢いのまま

三将が一本勝ちしてチームの勝ちを決

めました。

結果は、八勝三敗一分けの大差で愛

知県の勝利。

第三戦は、岐阜県と対戦

女子は、岐阜県が二勝（全勝）での

対戦。愛知県が勝てば優勝の可能性も

あり背水の陣で試合に望みました。

先鋒が二本先取して好スタートを切

りましたが、さすが岐阜県の次鋒。二

本取り返して、振り出しに戻され、そ

の後愛知県の中堅、副将が積極果敢に

勝負を仕掛けましたが引き分けられて

しまい大将戦となりました。愛知県の

大将も積極果敢に勝負を仕掛けて勝ち

に行きましたがさすが岐阜県の大將、

そこは許さず一本取ろうと前に出よう

としたところを上手く乗られて勝負有

り。結果は、一勝二敗二分けで愛知県

の負け。

男子は、先鋒から八将まで負けなし

の四勝でリード、中盤岐阜県に七将、

六将、五将と三連取されるも愛知県の

四将が二本勝ちをしてチームの勝利を

決め、試合が終わってみれば八勝三敗

一分けの圧勝で優勝を決めました。

女子は、優勝 岐阜県、第二位 三

重県、第三位 愛知県

男子は、優勝 愛知県、第二位 三

重県、第三位 静岡県

全勝賞は、男子十将の近本選手、八

将の藤原選手の二名でした。

以上が大会結果になります。

愛知県剣道連盟のために頑張ってくれ

ました全選手、また事務局や応援に来

ていただいた関係者の皆様に感謝申し

上げます。



第二十三回 全日本選抜剣道八段優勝大会

教士
北村 真一

第二十三回 全日本選抜剣道八段優勝大会に出場して、まず応援いただいた皆様には、残念な結果となりましたが、大変感謝申し上げます。

今年の大会で四回目の出場となり、前回大会では、初戦敗退と悔しい結果



に終わっていることで、今年こそは、上位を目指し挑みましたが、この大会に出場される選手は、歴戦の選手ばかりでそう簡単ではありませんでした。

東京代表平尾選手は、三年前の大会で対戦し敗れた選手で前回の試合では、延長戦で体力不足を感じ敗戦した記憶から、今年こそは試合開始から攻めていこうと決め挑みましたが、有効打突に近い技は出せましたが審判員の旗を揚げるのができないまま延長戦となりました。敗因の一つとして、前半戦での気持ちと、延長戦に入ってから心の変化があったと思います。最後まで無心で相手に立ち向かう気持ちが試合では大切と感じた試合でした。日頃



の稽古での取り組み姿勢、常に真剣勝負を心掛けた基本や稽古が大切であり、日頃の稽古でも一技々々に気持ちを込め継続することが大切であると感じたことを忘れず今後の稽古に精進しようと思います。やはり、入賞された選手は最後まで気持ちの切れない素晴らしい試合内容で勝ち上がって行ったように感じました。



本年度愛知県剣道連盟 強化委員長、国民スポーツ剣道大会総監督として、この大会に出場した経験と反省を県強化選手に気持ちの切れない姿勢を伝え、選手が本年度の大会に良い結果を残せるよう強化選手とともに精進していきたいと思います。

ありがとうございました。





教士
倉成 健治

第二十三回全日本選抜剣道八段優勝大会に選出され二度目の出場となりました。

前回大会は、一回戦の最終試合でしたので大会の雰囲気にも慣れ、時間の余裕もありそれほど緊張することなく試合ができました。

今回は第一試合宮崎県の谷川先生と対戦が決まりましたが、大会数日前に谷川先生にアクシデントがあり急遽岡山県の馬場先生に変更となりました。

私も大会約一ヶ月前に左足ふくらはぎを痛めてしまい一番大事な時期に十分な稽古ができない状態でしたが、何とか試合のできる状態まで回復することができました。

第一試合を迎え試合は終始私が仕掛け、相手は打ち終わりや出頭を狙っているという試合展開でした。

膠着状態が続いたまま延長戦に入り数回目の延長で私が前に出ようとしたところ馬場先生が面に出てきたところを上手く抜くことができ、抜き面を決めることができました。

第二回戦の相手は、過去四度出場し優勝三回三位一回、今回三連覇がかかる栄花直輝先生です。

年齢は五歳若くスピード、パワー、実績全てにおいて私をはるかに上回る先生です。

試合に臨むにあたり、八段選抜大会なので品位風格を前面に出した試合展開をするか、全身全霊全力で試合に臨むかなり迷いましたが後者を選択しました。

試合開始後激しく打ち合いましたがスピードパワー圧力はすさまじく、何とか気迫で持ちこたえ五分では決まらず延長戦に入り、数回目の延長で栄花先生得意の片手突きを決められて負けました。

昨年は悔しさが込み上げてきましたが、なぜか今回は充実感と達成感がありました。

その後栄花直輝先生は順当に勝ち進み三連覇を成し遂げました。

今後は、今大会の内容を反省し新たな課題に取り組み今回以上の試合内容ができるように努力精進してまいります。

終わりに、お忙しい中試合会場まで足を運んで応援していただいた皆様方並びに愛知県剣道連盟の諸先生方はじめ一緒に稽古をいただいたいた剣友の方々に感謝を申し上げます。

●第二十三回 全日本選抜剣道八段優勝大会観戦記●



剣道範士
山崎 尚

春たけなわの好季節、恒例の全日本選抜剣道八段優勝大会が名古屋市市中村スポーツセンターで開催されました。

開会式終了後、打太刀下島貴代一範士、仕太刀谷勝彦範士による日本剣道形の演武が行われました。

第一回戦の第一試合は地元倉成健治選手対岡山馬場健治選手の試合をかわきりに熱戦の幕があき、北海道栄花直輝選手の三連覇なるか、それを阻止するのは誰か、注目が集まることとなりました。

一回戦の十六試合は、緊張のせいか選手全体に硬さが見られましたが、二回戦からは硬さもとれ、気迫と気迫のぶつかり合い、技の応酬等見応えのある試合が続きました。

地元倉成選手は一回戦延長に入り見事な面を決め勝ち上がり、二回戦は三連覇を狙う強敵栄花選手と対戦でした。制限時間内に勝敗がつかず、延長戦に入り栄花選手の片手突きが

決まり、惜しくも二回戦敗退となりました。

また、地元北村真一選手は三年前二回戦で敗れた東京平尾泰選手と対戦となり、惜しい技が何本かありましたが、延長に入り小手を打たれ敗退となりました。

決勝戦は予想通り栄花選手五十七歳、一方今大会最年少の埼玉二回目出場の井口選手です。井口選手は昨年ベスト8で足を負傷し、棄権を余儀なくされ、今大会にかける意気込みが感じられました。

両者は全日本の世界大会強化合宿等で共に稽古し、手の内は知り尽くしていることもあり、序盤は静かな立ち上がりとなり、心と心の読み合い、打つべき機会の探り合いが続き、あつという間に五分間の制限時間が過ぎました。延長に入り、観客が息を潜める中、延長三回で栄花選手の面が決まり、この瞬間三連覇達成となりました。

終わりに、この大会は全世界にリアルタイムで大会の様子が発信されます。全ての面で模範となる試合内容であってほしいと思います。

また、今後地元選手の更なる活躍を期待し観戦記と致します。

第五十六回 愛知県春季少年剣道大会



西尾市立平坂中学校
剣道部顧問
福岡 隆二

愛知県春季少年剣道大会が三月十六日に中村スポーツセンターで行われました。新チームとなってから行われる、初めての県大会となりました。秋から冬にかけての厳しい鍛錬の成果を試す場として、男女ともに優勝を目指して臨みました。

男子は、立ち上がりから厳しい試合が続きました。我慢してなかなか攻め入れなかったり、先を取れずに相手に合わせて出てしまったりと、相手と戦う前に、自分に負けている試合が続きました。それでも、チームで支え合い一戦一戦勝ち上がっていくことができました。準決勝では、西尾東部中学校と対戦し、先鋒を取られながらも、次鋒と中堅で逆転をして、勝利することができました。決勝戦では、西三河大会でも決勝で対戦した高浜中学校でした。一対一の代表者戦の末、相手の小手の打ち終わりに引き面を決めて勝利することができました。

女子は、先鋒が安定した活躍を続け



第56回愛知県春季少年剣道大会
【中学生男女優勝】
令和7年3月16日



第56回愛知県春季少年剣道大会
【小学生の部優勝】
令和7年3月16日

たことで、どの試合も有利に試合を運ぶことができました。準決勝では、山田中と対戦しました。中堅戦までで、一対〇で副将に回りましたが、落ち着いて相手の出ばなにも小手と面を決めて勝負を決めました。決勝戦は二川中学校と対戦しました。この試合も、前半戦のリードを活かし、四対一で勝利することができました。

目標としていた優勝を男女ともに達成することができ嬉しく感じています。しかし、内容としては満足できる

ものではなく、まだまだ練習が必要であると実感しました。

中学校の部活動として、剣道の本質である人間形成を大切にしながら、これからも生徒と共に剣道の技術だけでなく、人としても成長できるように取り組んでいきたいと思っています。

最後に、中学校の部活動の縮小や地域移行が進み、先行きが不透明な部分や活動が思うようにできない地区も多いと聞いています。それでも、中学生から剣道を始められた

り、小学校からの継続やさらなる技能向上を求めることができる環境を整えたりすることの重要性を強く感じています。難しい課題ではありますが、より良い方法を模索していきたいです。

小学生	
優勝	久田剣道場 (名古屋)
2 位	師勝武道館 (尾 張)
3 位	東レ居敬堂 (西三河) 洗心道場 (名古屋)
中学男子	
優勝	平坂中学校 (西三河)
2 位	高浜中学校 (西三河)
3 位	鬼崎中学校 (尾 南) 西尾東部中学校 (西三河)
中学女子	
優勝	平坂中学校 (西三河)
2 位	二川中学校 (東三河)
3 位	山田中学校 (名古屋) 春木中学校 (尾 張)

歴史探訪 10

無刀取り発祥の地

妙興寺

黒澤明監督の「七人の侍」といえば日本映画史上最高傑作とも称され、公開七十周年を機に昨年、全米の映画館で上映されるほど、今なお絶大な人気を誇っている作品です。

映画の前半部分の最も印象的な場面として次のようなエピソードを覚えていらっしゃる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

後にリーダーとなる志村喬扮する勘兵衛が、子供を人質に盗人が民家に立てこもっているところに遭遇する。勘兵衛は、村の者に握り飯を二つ用意す



るように言い、通りがかりの僧に剃髪してもらい、袈裟を借りる。そして、民家の戸口に立ち、「子供が腹を空かせておるだろう、おまえも食べろ」と言って、まず握り飯一つを家の中に放り入れ、続けて二つ目を投げ入れる。その直後、勘兵衛は一気に家の中に飛び込む。やや間をおいて家の中からうめき声が聞こえ、盗人がよろめきながら外に出て絶命する。(この間、家の様子は一切映らないが、観客は続けざまに握り飯が投げ入れられたことで、受け取ろうとした盗人の両手がふさがってしまったことを理解する)

このシーンは、実は新陰流の流祖、上泉伊勢守信綱の有名な逸話をもとにしています。尾張柳生宗家二十世、柳生厳長著『正伝・新陰流』には、信綱が上洛の途上、尾州の大利、妙興寺の



あたりで事件に遭遇し、僧形となり、握り飯二つを持って乱心者に対峙し、二つ目の握り飯を受け取ろうと乱心者が脇差を置いた刹那、手縛されたことが描かれています。

(乱心者は映画とは違い、生け捕りである)

その舞台となった妙興寺は、愛知県一宮市にある臨済宗妙心寺派の七堂伽藍様式を今に伝える巨刹です。その境内の一角には「上泉伊勢守信綱居士修道跡」と刻まれた石碑と「無刀取発祥の寺」と書かれた立て看板が設置されています。発祥とした所以は、この事件の後、信綱より「無刀取」の公案を託された柳生宗厳(石舟斎)が無刀取を完成させ、印可状を授かったことによっています。

ただ、信綱については同時代史料に乏しく、妙興寺での出来事も口伝に過ぎません。しかし、妙興寺の傍には鎌

倉街道が通っており、禅に造詣が深かったと言われる信綱が上洛の折に、禅宗の名刹、妙興寺を訪れたであろうことは想像に難くありません。

また、流祖を機縁として柳生宗家と妙興寺の親密な関係が作られたことは、三世柳生利厳(兵庫助)が寛永八年(一六三一)、妙興寺に仏画「十六羅漢図」および「道仏二教諸尊図」を寄進していることから分かります。(両作品は隣接する一宮市博物館にて収蔵)

近年においても、平成二十三年(二〇一一)境内において「流祖上泉伊勢守信綱公追善供養・奉納演武」が盛大に挙行されています。

妙興寺での逸話は、江戸中期の「本朝武芸小伝」に採録され、広く世間に知られるようになり、後世に語り継がれていきました。

池波正太郎も長編小説『剣の天地』の中でこの出来事を取り上げ、「伊勢守の剣法は、この旅の挿話につきるといってもよい」とまで評価しています。上泉伊勢守信綱の往時を想像しながら、ぜひ妙興寺を訪れてみてはいかがでしょうか。

〈妙興寺へのアクセス〉

一宮市大和町妙興寺2438
名鉄名古屋本線「妙興寺駅」より東へ
徒歩7分

(文責 広報委員 安田徹夫)

居合道だより

令和六年度「居合道の活動」

居合道委員
吉田 伸一

令和六年、コロナ感染対策も定着し、居合道の「稽古会」「講習会」「大会」等は以前にも増して盛況に行われています。

近年、愛知県は大会で好成績を挙げています。東海四県対抗居合道大会では三年連続して優勝。全日本居合道大会では前々年総合五位、前年総合四位、令和六年総合四位、中でも五段の西川貴都選手は優勝（二連覇）されました。ご存じの様に、居合の試合は対戦相手と立ち合うことはありません。正しい礼法・作法、五本の技は仮想の敵に対し気・剣・体一致、の優劣を審判が判断し勝敗を決します。

試合で勝ちたい、昇段審査で合格したいというのが稽古会・講習会への参

加となり盛り上がりを見せていると思われま

ここで、私の所属している西三河剣道連盟居合道部の活動状況を紹介し

す。
剣連の大田理事長、事務局はじめ関係者及び地区剣連のご理解ご協力の下、年三回、春季・秋季・伝達の講習会と年一回の居合道大会を実施して

春季居合道講習会

日時 六月三十日

主管 豊田市剣道連盟

術技講習では十二本の技の動作と注意点を説明。次に二人向き合い敵を意識した居合の指導がされました。審判講習は五段以下の試合を六・七段が審判する形で審判員の所作、旗の上げ下げ、発声、判定理由の問いに対する回答などを指導。

秋季居合道講習会

日時 八月十八日

主管 岡崎市剣道連盟

居合道教本をもとに、副講師が演武し主任講師が礼法・作法・動作のポイントを説明。次に、受講者の居合を主任講師・副講師が指導。

地区伝達講習会

日時 十一月十七日

主管 みよし市剣道連盟

七月の全剣連中央・地区講習会に派遣された水野先生による西三河地区への伝達講習。全日本剣道連盟居合「指導上の留意点」に基づき、敵を見立てた相手を木刀を使い動作を説明。居合も時代と共にやり方が少しずつ変わっており、その内容は試合・審判・審査に影響する事で受講者は真剣に取り組んだ。

何れの講習会も主任講師水野隆教士八段、副講師宇井幸夫教士七段・中江武教士七段に務めていただいています。

第三十四回西三河居合道大会

日時 八月十八日

主管 みよし市剣道連盟

役員に堀山健治西三河剣道連盟副会長のご出席を仰ぎ、段外の部から六段

の部までのトーナメント試合。各段気合の入った試合を展開し、最後に七段の先生による模範演武が披露され盛会にとり行われました。

二月十六日に西三河剣道祭が行われ、開会式で水野教士八段による模範演武。出席者の多くの方々が感銘を受けておられました。居合道の部では四段以上が演武。剣道の部は各地区五段以上の拝見立ち合いが行われました。

居合の演武は、剣道形大会の開会式、地区の剣道大会の開会式等で行われており剣道と居合の融合を図っています。居合道人口は減少。居合の演武を通して、ご父兄、観客の始めるきっかけづくりに繋げ、一人でも多くの仲間を増やしていきたいと思

います。武道ではよく「修行の深さ」が問われます。言いかえれば「稽古の質と量」。西三河としては居合の「稽古会」を行っています。西三河でも「稽古会」を検討し実施したいと思います。

最後に、愛知県剣道連盟及び西三河剣道連盟の居合道に対するご理解ご支援に深く感謝申し上げます。

杖道だより

杖道委員長
中西 幸男

例年ゴールデンウィークに武道の聖地といわれる武徳殿で、古武道などの演舞が行われています。初めてここを訪れたのは、今から五十数年前です。私は学生で弓道部に在部し、二・三年生のこの時期は三十三間堂と大阪住吉大社の遠の大会に参加していました。当時、部の監督は故弓道範士九段山内成豊先生でした。先生は、教育学部の体育の先生で剣道の監督もなされていましたが、退職される年には弓道範士になっておられます。

先生は、三十三間堂遠の大会の合間に私達学生数人を連れて武徳殿を案内してくださいました。訪れたときは、誰も居らずガランとしていましたが、印象にあるのは道場に掲げられた額に『剣は心なり 心正しければ 剣また正し』とあったことです。これは正射を射たものと思えました。『剣』の代わりに『弓』に置き換えて戒めにしたものです。



さて、令和六年の杖道の活動について申し上げます。二月に昭和スポーツセンターで行われた一級から五段の段級審査の合格者は、一級五名、初段七名、二段十一名、三段七名、四段十二名、そして五段が二名の四十四名でした。昨年より全体ではプラスでしたが、一級の受審者が昨年の七名から五名とマイナスになったことに若干の不安を感じます。

高段者審査は、六段から八段審査が三月に江戸川区スポーツセンターで、八段審査が五月に京都市体育館で、六・



七段審査が八月に広島県立総合体育館武道場で行われましたがいずれも私を含め合格者がいなかったことが残念に思われます。※

全日本剣道連盟杖道講習会は、三月及び八月の高段者審査後の土・日曜日の二日間にわたり同会場で行われました。講習は、杖道解説書の内容を確認するもので要点や統一を図るところは従来通りでした。若干の改正点があり、「霞の構え」で太刀と合わせる時にどうするかというものでした。

全日本杖道大会は、十月十三日（日）に京都市武道センターで行われ、愛知からの参加者が少ない中、六段の部で野呂・戸谷組が善戦し三回戦まで進み

ました。

定例の剣連主催で実施される合同稽古会は、八月を除き（台風接近による中止）熱心に稽古できました。

終わりに、杖道委員を紹介します。写真右から富田先生、前田先生、私に小崎先生です。杖道が少しでも発展できるように微力ですが頑張つて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

そして、剣連理事長、事務局長を始め関係者の皆様の協力により各行事の運営が滞りなく終えたこと等、杖道に対するご理解とご支援に対し深く感謝申し上げます。

※令和七年五月三日 前田新吾氏が杖道八段に合格しました。

「編集委員会より」



警察だより

愛知県警察
勝野 伸太郎

剣道特練の概要

愛知県警察剣道特練は現在、選手二十三名、指導者四名の計二十七名で愛知県武道館において、将来の術科指導員の育成を目的に厳しい稽古に励んでおります。

特練の信条は、『一源三流』であり、国のために血を流し、社会のために汗を流し、友のために涙を流す

この言葉を深く胸に刻みながら日々の修行を継続しています。

また、特練である以上は、ひたすら勝利を求める姿勢が必要です。本県の剣道特練は過去に三名の全日本選手権優勝



二府二県警察剣道大会

者を輩出した名門ではありますが、全国警察剣道大会一部（男子団体戦）においては、準優勝が二回あるだけで、未だ全国制覇を果たしておりません。今年こそは全国の強豪に勝利し、念願の警察日本一を勝ち取る気概で稽古を積んでいく所存です。

☆令和六年度二府二県警察剣道大会
令和六年六月六日（木）愛知県武道館で二府二県警察剣道大会が開催され



全国警察剣道選手権大会

ました。男子十三人制、女子三人制で技を競い、男子団体においては大阪府警に惜敗したものの第二位の成績でした。

男子

- 優勝 大阪府警察
- 第二位 愛知県警察
- 第三位 兵庫県警察
- 第四位 京都府警察

女子

- 優勝 大阪府警察
- 第二位 京都府警察
- 第三位 兵庫県警察
- 第四位 愛知県警察

☆令和六年度全国警察剣道選手権大会

（個人）

令和六年九月三日（火）日本武道館

において全国警察剣道選手権大会が開催されました。男女合わせて四名の選手が出場し、全員が健闘を見せましたが、中でも安藤萌花選手（名古屋大谷高校出身・二十二歳）がベスト8に出し、第五位として全国の強豪とともに表彰を受けました。

男子 久田松雄一郎 一回戦敗退

宮崎 大輝 ベスト16

小川 萌々香 ベスト16

安藤 萌花 ベスト8（第五位）

☆令和六年度全国警察剣道大会（団体）
令和六年十月二十一日（月）日本武道館において全国警察剣道大会が開催されました。

男子は前回大会で苦杯をなめ、二部での出場となりましたが、選手全員が

一丸となり、二部準優勝の成績で一部
復帰を果たしました。

男子

第一部

優勝 大阪府警察

第二位 茨城県警察

第三位 神奈川県警察

第四位 宮城県警察

第二部

優勝 埼玉県警察

第二位 愛知県警察

第三位 長崎県警察

第四位 皇宮警察

第三部

優勝 広島県警察

第二位 石川県警察

第三位 岐阜県警察

第四位 岡山県警察

女子

優勝 福岡県警察

第二位 北海道警察

第三位 宮城県警察

第四位 大阪府警察

☆全日本剣道選手権大会

全日本女子剣道選手権大会

令和六年十一月三日(日) 日本武道

館において全日本剣道選手権大会と全
日本女子剣道選手権大会が同時開催さ
れました。本県からは男女合わせて四
名の選手が出場し、男子の屋我選手と
女子の小川選手が素晴らしい試合を展
開し、優秀選手に選出されました。



全日本剣道選手権大会
全日本女子剣道選手権大会



男子

屋我 飛翔 ベスト16 (優秀選手)

女子

近本 太郎 ベスト16 (優秀選手)

男子

小川 萌々香 ベスト16 (優秀選手)

女子

安藤 萌花 二回戦進出

期待の新人



三宅 涼介 (みやけ りょうすけ)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 愛知県名古屋市
- ・出身道場 愛知洗心道場
- ・出身高校 龍谷高等学校
- ・出身大学 法政大学
- ・主な戦歴 全日本学生優勝 (団体)、
関東学生三位 (個人)



金子 遙花 (かねこ はるか)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 愛知県名古屋市
- ・出身道場 天白少年剣道育成会
- ・出身高校 岡崎城西高等学校
- ・出身大学 星城大学
- ・主な戦歴 全日本女子選手権出場、
全日本学生三位 (団体)



渡邊 臣人 (わたなべ おみと)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 大分県宇佐市
- ・出身道場 宇佐剣志会
- ・出身高校 明豊高等学校
- ・出身大学 福岡大学
- ・主な戦歴 全日本学生出場 (団体)、
全国高校総体三位 (団体)



湯川 愛梨 (ゆかわ まり)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 愛媛県松山市
- ・出身道場 八坂剣道会
- ・出身高校 済美高等学校
- ・出身大学 大阪体育大学
- ・主な戦歴 全日本学生ベスト8 (個人)



田外 祥規 (たげ よしのり)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 愛知県長久手市
- ・出身道場 天白少年剣道育成会
- ・出身高校 星城高等学校
- ・出身大学 星城大学
- ・主な戦歴 全日本学生出場 (個人・
団体)、全日本学生東西対抗出場



佐藤 美空 (さとう みく)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 新潟県新潟市
- ・出身道場 仁智館道場
- ・出身高校 筑紫台高等学校
- ・出身大学 日本体育大学
- ・主な戦歴 全日本女子選手権出場、
全日本学生二位・三位 (団体)、玉竜旗三位

刑務官だより



中部矯正管区
警備指導官
溝口 夏樹

刑務官の活動状況等について

「令和六年度における愛知県内 刑務官の主な試合結果」

「名古屋管内施設対抗試合」

令和六年四月二十六日、名古屋刑務



所において、標記試合が開催された。

この試合は、名古屋矯正管区（富士、石川、福井、岐阜、愛知及び三重県）内の矯正施設における施設対抗試合（団体五人制）であり、全国大会の予選を兼ねている。結果については、予選リーグにおいて最も激戦のリーグに入った名古屋拘置所が、名古屋刑務所、豊橋刑務支所及び金沢刑務所から勝利し、そのまま決勝リーグも勝ち抜いて第一位となり、二年連続、全国大会への出場を手にした。

「全国矯正職員施設対抗試合」

同年六月七日、東京拘置所において各地区の予選を勝ち抜いた十三の施設において開催され、今大会からトーナメント方式での開催となった。



名古屋管区の代表として出場した名古屋拘置所は、一回戦で松山刑務所と対戦し、先鋒浅田選手、次鋒岩坂選手、中堅佐々木佑樹選手が引き分け、副将の福山選手がメンの一本勝ちを収め、各選手が終始押し気味に試合を展開しており、このまま勝利かと思えたが、大将の佐々木富弥選手が立て続けに相手大将から、ツキ、メンと二本連取され、まさかの初戦敗退となった。

大会の成績

- 第一位 東京拘置所
- 第二位 福岡刑務所
- 第三位 熊本刑務所
- 第三位 松山刑務所

「名古屋管内選手権試合」

同年八月八日、石川県立武道館において、標記試合が開催された。

この試合は、名古屋矯正管区内の矯正施設から選抜された選手三十六名における個人試合であり、第一位から第五位まで全国選手権試合への出場を手にする事ができる。愛知県内からは、岡崎医療刑務所、名古屋刑務所、名古屋拘置所及び豊橋刑務支所の各施設から合計十三名の選手が出場したものの、残念ながら入賞者はおらず、全国大会への出場者はいなかった。

「名古屋管内女子剣道試合」

同年十月二十五日、富山県総合体育

センターにおいて、標記試合が開催された。

この試合は、名古屋矯正管区内の女子選手十三名における個人試合であり、第一位から第八位（下位二名は補欠。）まで全国女子剣道試合への出場を手にすることができる。愛知県内からは、名古屋拘置所及び豊橋刑務支所から合計六名の選手が出場し、第三位に笠嶋選手（豊橋刑務支所）が入賞し、全国大会への出場を手にした。また、補欠選手として山元選手（名古屋拘置所）が選出された。

なお、同日、名古屋管内秋季剣道試合（奨励大会）も開催され、愛知県内



からは、刑事施設だけではなく、少年施設からも瀬戸少年院及び愛知少年院が出場し、瀬戸少年院においては第二位に入賞した。

「全国矯正職員選手権試合及び同女子剣道試合」

同年十二月十二日及び同月十三日、大阪刑務所において、標記試合が開催された。

始めに、同月十二日、同女子剣道試合（団体三人制）が行われ、全国から十三チームが出場し、名古屋管区から、

岐阜県にある笠松刑務所及び名古屋混成（笠松刑二名、笠嶋選手）の二チームが出場したものの、残念ながら両チームとも予選リーグで敗退する結果となった。笠嶋選手については、中堅で出場し、個人成績は一勝一敗であった。

次に、同月十三日の午前中、団体試合に出場した三十九名の選手による同女子選手権試合が行われ、笠嶋選手は、一回戦、延長の末、麓刑務所の選手に見事な片手メンを決めて上々の立ち上がりであったが、二回戦で福島刑務支

所の選手にメンを決められ、惜しくも敗退する結果となった。

最後に、同日午後からは、同選手権試合（男子）が行われた。

なお、大会に際し、著名な剣道家である大阪府の吉田一秀、石田洋二、石田真理子、寺本将司の各先生方に来賓としてお越しいただき、稽古についてご指導賜った。

大会の成績

- （女子団体試合）
第一位 麓刑務所
第二位 東京管区混成A

第三位

札幌管区混成

第三位

大阪管区混成

（女子選手権試合）

第一位

本田 和

第二位

北川 真優

第三位

荻口 未紗

（加古川刑務所）

山元 知優

（和歌山刑務所）

（和歌山刑務所）

（和歌山刑務所）

（和歌山刑務所）

【今後の目標】

愛知県内の男子選手においては、全国選手権試合に一名も出場出来ていない状況であり、強化指定選手に指名された選手に対し、積極的に強化練習に参加させるなどして個々のレベルアップを図るとともに、令和七年度の新たな新採用者にも活躍を期待し、令和六年十二月に山梨県で開催された全日本選抜女子剣道七段優勝大会において第三位に入賞した東京矯正管区の大里史織先生を見習い、愛知県の刑務官が各種大会において上位入賞出来るよう頑張っていきたい。

【令和七年度の新採用者】

「岡崎医療刑務所」

山岡 冬馬（星城大学出身）

「名古屋刑務所」

片神 明信（愛知大学出身）

梅本 雄一（中京大学出身）

蔵本 大樹（名古屋経済大学出身）

深尾 幸大（名古屋経済大学出身）

「名古屋拘置所」

尾上 周翼（中京大学出身）

片上 真之介（星城大学出身）

岡田 航太（星城大学出身）

「豊橋刑務支所」

中本 みずき（岡崎城西高校出身）



実業団だより

中部地区実業団剣道連盟
理事

平尾 正典

中部地区実業団剣道連盟は、令和六年が設立から五十八年目となりました。今日も実業界の多くの剣道仲間が、切磋琢磨し、「剣を交えて(愛)おしむ」を知る」ことができるのも、これまでの先生方・先輩方の多大なるご尽力の賜であり、感謝に堪えません。

先ず本年の大変喜ばしい出来事として、八月に行われた剣道八段審査会において実業団OBの大崎保先生(元 新日本製鐵(株))と、日本耐酸壇工業(株)の都竹直孝先生が難関を突破して見事に八段に合格されました。お二人とも努力を積み重ねられた結果とのことであり、大崎先生におかれましては、八十一歳での合格となり、先生の取り組みをお手本に、生涯剣道を目指していきたいところです。

本年の本連盟の活動としましては、昨年に引き続き、団体戦・個人戦の各大会や審判講習会、合同稽古会を予定通り開催し、多くの選手や剣道仲間に参加していただきました。六月に実施しました中部地区実業団剣道大会で

は、大同特殊鋼(株)が終始勢いある試合を展開し、見事に三連覇を果たしました。次回に向けて加盟各社とも研鑽を積み重ねることと思います。

また、近畿実業団剣道連盟からお声がけをいただき、初めてとなる合同錬成会を八月に大阪で実施し、たくさんの方と交流を深めることができました。このような他の組織・団体との活動の機会は大変有意義なものであり、今後も実施されることが望まれます。

さらに当連盟主催以外の、全日本実業団剣道大会、全日本実業団女子・高壮年剣道大会、愛知県剣道連盟主催の大会などへも加盟各社の選手が出場し、好成績を収められました。いろいろな活動が制限なく実施されることの

有難みを感じた二年でした。

企業は、業務から離れて心身を鍛える場を設けることで、ワーク・ライフバランスの改善を図る目的で文化・体育活動を奨励しており、剣道においては、「礼節を重んじる」、「精神的に成長する」ことの修養が、企業倫理や職場のモラル向上に寄与することとして期待されています。また、企業内においても、仲間の文化・体育活動での活躍が、組織としての活性化の一助になっています。

一方で企業を取り巻く環境は刻々と変化し、働き方改革や価値観の変容により、従前のような企業からの支援体制ではなくなってきたことも事実です。令和六年度の当連盟の加盟団体

数は、五十二団体と全盛期より二割程度減少しており、また、試合の参加状況を見ると、一部には団体戦の人数が揃わなかったり、参加者の年齢層が高まっている部分も見受けられます。就

職して間もない新人が、技量や対人能力向上といった個人的な成長とともに、企業・社会の発展にも貢献している意味深い取り組みであることを理解し、想いを持って剣道を続けてもらえるよう、創意工夫や改善を図りつつ場を造っていきたいと考えます。

今後、愛知県剣道連盟をはじめ各関係団体と連携を図りながら、取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和六年度大会結果報告

【第五十八回中部地区実業団剣道大会】

- (優勝) 大同特殊鋼 本社
(第二位) 大同特殊鋼 星崎
(第三位) J R 東海 本社 A
J R 東海 本社 B

【第三十七回中部地区実業団女子剣道大会】

- (優勝) NTP 名古屋トヨベット
(第二位) サンエイ刈谷
(第三位) パローホールデイングス
パナソニック I D 名古屋

【第四十回中部地区実業団剣道段別選手権大会】

- *六・七段の部
(優勝) 今泉 勇人 (J R 東海)
(第二位) 井上 隼 (生川倉庫)

【第三位】 高田 大暉 (東レ岐阜)

井上 諒 (生川倉庫)

*五段の部

- (優勝) 神野 大輔 (大同特殊鋼)
(第二位) 茅根 颯人 (大同特殊鋼)
(第三位) 西本 光佑 (三菱電機)
村田 雅俊 (J R 東海)

*四段の部

- (優勝) 安藤 千真 (大同特殊鋼)
(第二位) 鈴木 悠平 (サンエイ)
(第三位) 瀬尾 洸太郎 (大同特殊鋼)
久米 博人 (サンエイ)

*三段の部

- (優勝) 安藤 伊織 (大同特殊鋼)
(第二位) 佐々木 駿人
(NTP 名古屋トヨベット)
(第三位) 柿迫 大樹 (大同特殊鋼)
米澤 拓海 (サンエイ)

*二段以下の部

(優勝) 井口 雅也 (豊田自動織機)

- (第二位) 石川 加寿也 (三菱電機)
(第三位) 柴 考侑 (ニデック)
別井 樹 (リゾートトラスト)

【第五十四回中部地区実業団剣道女子選手権大会】

- (優勝) 東野 嘉玲 (パナソニック I D)
(第二位) 脇田 えり (大同特殊鋼)
(第三位) 須浪 優加 (三菱電機)
平山 まりん (トヨタ自動車)

※十月に開催する実業団剣道選手権大会は、転勤者や所属企業に剣道部がない方を対象に個人会員制度を設けて、広く大会出場者を募集しております。是非、ご参加ください。

道場連盟だより



愛知県剣道道場連盟
事務局長
浅井 誠一郎

日頃より本連盟の活動に多大なお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

また、平素の少年少女剣士への情熱溢れるご指導に対し、深甚なる敬意と感謝を表する次第であります。

令和六年度、愛知県剣道道場連盟加盟団体数五十八団体、一二六〇名の登録となり、昨年度に比べ約八十名増えました。少年少女剣士の増加要因としては、加盟団体数の増加、小中学校部活動の減少、研修会の工夫、SN S等の配信などと考えます。

今年度は三つの方針を掲げて取り組んできました。(1)少年剣道の普及・伝承 (2)研修会の充実 (3)道場連盟の世代交代を円滑に図るために若手指導者育成機関「若葉会」の補強。最も力を入れて取り組んだ事は、研修会の工夫です。令和六年十一月三十日(土)露橋スポーツセンターにおきまして、第一二六回愛知県剣道道場連盟研修会を開催いたしました。今回、特別講師として安藤翔先生(国士館大学教員)、吉武剛先生(愛知県警察機動隊)をお招きしました。安藤翔先生は令和六年七月にイタリアで開催されました世界大会日本代表選手並びに主将・大将として日本優勝に大きく貢献されました。一年前からの計画が現実となり、参加選手は小学四年生から中学三年生までの四五〇名になりました。剣道講話から始まり、素振り、基本打ち、地稽古などの指導を頂き、子どもたちにとって夢のような時間を設ける事ができました。参加した子供たちの中から将来日本を背負っていく選手が育っていく事を願っています。

少子高齢化が進む中、本連盟の役割は、今後さらに大きくなっていくと思います。多くの人が加入していただき、一人でも多くの青少年に日本の伝統文化であり、日本人としての心を、剣道を通じて、指導して行きたいと考えております。今後も愛知県剣道道場連盟は師弟同行の精神を図って各種行事を開催し、少年少女剣士育成を軸に剣道の発展普及のために努めて参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

『中部地区体験・実践発表会』
令和六年十二月八日(日)中部地区体験・実践発表会において二名の女性剣士の活躍がありました。本連盟では剣道から学んだ体験を発表し、東レ居敬堂古田紫朋さんの作品「私の離」が見事、最優秀賞に輝きました。
令和七年三月九日(日)東京武道館で開催されました。全国大会に中部地区代表として出場し敢闘賞を受賞しました。



第126回愛知県剣道道場連盟研修会

今年度は三つの方針を掲げて取り組んできました。(1)少年剣道の普及・伝承 (2)研修会の充実 (3)道場連盟の世代交代を円滑に図るために若手指導者育成機関「若葉会」の補強。最も力を入れて取り組んだ事は、研修会の工夫です。令和六年十一月三十日(土)露橋スポーツセンターにおきまして、第一二六回愛知県剣道道場連盟研修会を開催いたしました。今回、特別講師として安藤翔先生(国士館大学教員)、吉武剛先生(愛知県警察機動隊)をお招きしました。安藤翔先生は令和六年七月にイタリアで開催されました世界大会日本代表選手並びに主将・大将として日本優勝に大きく貢献

第四十七回中部地区剣道少年団
研修会体験・実践発表会

開催日 令和六年十二月八日

小学生の部 最優秀賞

【私の離】

愛知県 東レ居敬堂 古田紫朋

中学生の部 優秀賞

【力を合わせて】

愛知県 武徳館剣道教室 今道一花



中体連だより

全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

監督 名古屋市立楠中学校 福島 徹哉

令和六年九月十五日(日) おおきにアリーナ舞洲で、全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会が行われました。予選リーグは、島根を二対二の本数勝ち、北海道を三対〇で破り、決勝トーナメントへ進出。一回戦滋賀を三対〇、準々決勝大阪Aを二対一で破り準決勝に進みました。準決勝は佐賀に二対一で惜しくも敗れましたが、愛知県勢初の三位入賞を成し遂げました。

今回も剣道連盟のバックアップをいただきながら、監督とコーチで連携を図り、チームづくりを中心に強化稽古を設定しました。



都道府県



強化稽古は、全日程選手全員が参加することができました。平日の稽古では、しかけ方と基本を中心に実践稽古を行い、土日は県外へ遠征に行き試合練習を中心に取り組みました。自分の得意とする技が出せるように、試合運びと組み立てについて指導しました。大会当日は、選手・監督ともにとても気持ちよく試合に集中することができました。竹刀検量や練習では、コーチ陣と連携してスムーズに取り組みめました。食事の手配や応援場所の確保などは、保護者の方々に段取りしていただきました。選手、監督、コーチ、保護者が一丸となって大会に臨む雰囲気、今回の結果につながりました。今後、更なる高みを目指して、楽しく一丸となって取り組むことができる環境づくりに努めたいと思います。最後に、たくさんのお客様に感謝し、お礼の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

本年度も中体連剣道競技部の活動に対し、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

総合体育大会の団体入賞校と個人入賞者の紹介と、全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に向けた取り組みについて掲載させていただきます。

愛知県中学校総合体育大会

(八月一日)

男子団体

優勝 西尾中
二位 平坂中
三位 水野中
三位 高浜中

女子団体

優勝 西尾中
二位 平坂中
三位 高浜中
三位 二川中

男子個人

優勝 中島 昊(矢作中)
二位 關澤一太(水野中)
三位 青木智将(八王子中)
三位 後藤凱成(平坂中)

女子個人

優勝 大嶋虹乃美(志段味中)
二位 江口奈優(日進西中)
三位 江口心絆(東郷中)
三位 東 美緒(千秋中)



県女子団体



県男子団体



県女子個人



県男子個人

東海中学校総合体育大会

(八月九日・十日)

男子団体

二位 平坂中
三位 平坂中

女子団体

優勝 中島 昊(矢作中)
二位 青木智将(八王子中)

男子個人

二位 青木智将(八王子中)
三位 今道一花(山田中)

女子個人

三位 今道一花(山田中)

愛知県中小体連剣道専門委員長

佐藤 祐広

高体連だより



愛知県高等学校体育連盟
剣道専門部 前委員長
田中 勝明

今年度も高体連剣道専門部の活動におきまして、多大なご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございました。昨夏の異常なほどの暑さが忘れ去られたような季節となりました。様々な所で、夏の暑さ対策にはご苦労されたことと推察致します。

さて、日本の人口減少に伴い剣道界にもひしひしとこの影響が出てまいりました。愛知県は全国高体連剣道専門部の中で高校剣士の登録数は東京都に次ぎ第二位となっています。しかしながら年々大会参加校が減少の一途をたどっています。様々な活動の中で、更なる剣道の魅力を発信していかなければならない事を痛感しております。

今後も鋭意努力して参りますので、ご指導よろしくお願い致します。

令和六年度愛知県高等学校
新人体育大会

戦評

男子団体戦決勝、明和对名古屋の対戦となりました。先鋒戦名古屋（酒井）が胴を先制するも明和（秀島）が激しく攻め、胴と小手を決め逆転勝ち、次鋒戦明和（西山）名古屋（東原）中堅戦明和（酒井）名古屋（堺）両校ゆずらず引き分け、副将戦明和（道正）が面を先制するが名古屋（山元）意地で面を返す、勝負の大将戦も激しい戦いの末、明和（眞野）名古屋（牧）引き分けに終わり、明和高校が接戦を制し優勝を決めました。

女子団体戦決勝、星城対三好の対決、先鋒戦星城（市川）三好（石原）両者攻め合うが引き分け、次鋒戦星城（畠中）が中盤思い切りの良い面を三好（武石）に決めて一本勝ち、中堅戦星城（吉田）三好（宮崎）両者慎重な攻め合いで決まり手なく引き分け、副将戦星城（奥田）三好（藤浦）奥田の堅い守りで引き分けに終わる、大将戦星城（富松）は三好（久野）の積極的な攻めに対し冷静に出ばな面を決めそのまま一本勝ち、見事星城が優勝を決めました。

記 愛知県高体連剣道専門部

小瀧 太一



男子三位 桜丘高等学校



男子二位 名古屋高等学校



男子優勝 明和高等学校



女子三位 岡崎城西高等学校



女子二位 三好高等学校



女子優勝 星城高等学校

「大会結果」

男子団体優勝 明和高等学校

準優勝 名古屋高等学校

第三位 桜丘高等学校

第四位 星城高等学校

第五位 西尾高等学校

第五位 岡崎城西高等学校

第五位 杜若高等学校

第五位 豊川高等学校

女子団体優勝 星城高等学校

準優勝 三好高等学校

第三位 岡崎城西高等学校

第四位 時習館高等学校

第五位 桜丘高等学校

第五位 豊川高等学校

第五位 愛知高等学校

第五位 大同大同高等学校

愛知県学校
剣道連盟だより愛知県学校剣道連盟
理事長
半田 憲生

○愛知県学校剣道連盟について

愛知県学校剣道連盟は、幼・保・小・中学校、高校、大学等に勤務する教職員を構成員として、教職員大会予選、地区対抗大会、都道府県対抗大会予選、各地区持ち回りの稽古会・懇親会といった活動を通して、剣道の発展に寄与していくことを目的としています。

上位組織として、全日本学校剣道連盟があり、全国教職員剣道大会の開催や各種の研修事業を展開しています。

○全国予選会及び総会等の報告

令和六年六月三日に、全国教職員大会のための愛知県予選会が、名古屋市稲永スポーツセンターで行われました。集まった選手により力の入った試合が展開され、七名の選手が選出されました。

先鋒 芳賀 哲士（岡崎城西高）

次鋒 那須田圭祐（港特支校）

中堅 三浦 領大（桜丘中）

副将 今道 基弘（向陽高）

大将 浜崎 高宜（豊田大谷高）

男子個人 澤田 健佑（南光中）

女子個人 杉浦 愛理（西尾高）

この日、予選会に続いて、総会、地区対抗大会も開催されました。親睦を深めるよい機会となりました。

○全国教職員剣道大会に参加して

令和六年八月十一日には、全国教職員剣道大会茨城大会が、神栖市かみす防災アリーナで行われました。選手は試合会場の下見と練習のために、前日午後、現地入りしました。選手は稽古で汗をかき、事務局は、大会開催のノウハウ等を教えてもらいました。

大会当日、愛知チームは地元茨城に敗れたもののベストエイトまで進み、愛知大会に向けて勢いをつけました。

◇団体一回戦（対宮城県）

先鋒引分け、次鋒二本負け、中堅引分けの状況から、副将、大将が連続して二本勝ちして逆転勝利。

◇団体二回戦（対熊本県）

強豪に対し、先鋒引分け、次鋒一本勝ち、中堅引分けの後、副将が落ち着いて一本勝ちし、勝負を決めた。

◇団体三回戦（対広島県）

先鋒、次鋒が共に一本負けの後、中堅一本勝ち、副将引分け、大将一本勝ちで、勝負は代表者戦へ。本戦引分けの副将が再戦。きっちり小手を決めて、勝ち切ることができた。

◇団体四回戦（対茨城県）

ここまで圧倒的な強さを見せてきた地元茨城に挑んで健闘するも、中堅が引分けた以外は、全敗でした。

◇個人戦

男女とも一回戦負けでした。

澤田 一メ ○小此木（群馬）

杉浦 一コ ○北村（奈良）

○来年度に向けて

令和七年八月二日には、全国教職員剣道大会が愛知県で行われることが決まっています。ぜひ、皆様のご協力をお願いいたします。会場は、当初予定していた西尾市総合体育館から、小牧市スポーツ公園総合体育館パークアリーナ小牧に変更して、開催する予定です。また、大会前日の練習会場には、春日井市落合公園体育館を予定しています。

この機会に教職員の皆さんには、選手を目ざすだけではなく、それぞれの立場で大会運営に関わっていただき、率先して、剣道を愛し、剣道を盛り上げようとしている姿を見せていただきたいと願っています。



東海学生

剣道連盟だより

東海学生剣道連盟の

活動について



東海学生剣道連盟
理事長
六郷 恭二

東海学生剣道連盟では、東海四県に所在する大学剣道部による活動を展開しています。

主な事業は、五月の全日本学生（女子）剣道選手権大会東海地区予選会、九月の東海学生（女子）学生剣道優勝大会東海地区予選会など、本連盟が主催する大会などが挙げられます。

その他に本連盟の最大の事業として挙げられるのは、十一月の「全日本女子学生剣道優勝大会」の開催です。この大会は、全日本学生剣道連盟、毎日新聞社が主催者として、東海学生剣道連盟が主管連盟として開

催しています。

この大会は、毎年会場として春日井市総合体育館をご提供いただいている春日井市を始め、関係各諸団体の絶大なるご支援、ご協力を得て開催されています。

令和六年度に開催した第四十三回では、従来一日開催であった大会を、初めて二日間で開催することとしました。われわれにとっては初めての試みで、役員関係者の宿泊、大会スケジュール、それに合わせた予算編成など、準備運営にあたった学生諸君や連盟役員は大変な思いをして取り組みました。しかし、関係者の努力により、大会を成功裡に終えることが出来ました。

現在、本連盟では、出生者数の減少に伴う十八歳人口減、学生数の減少に起因した剣道部員登録数減という問題に直面しています。今後は、これらの問題、課題に正面から向き合い、学生剣道発展の一助となるような活動を展開していきたいと考えています。

【令和六年度主要結果】

第七十一回東海学生剣道選手権大会

（兼全日本学生剣道選手権大会予選）

優勝 尾上 周翼（中京大）

準優勝 田淵 晶登（中京大）

第三位 藤田 仁平（中部学院大）

第三位 蔵本 大樹（名経大）

第五十六回東海女子学生剣道選手権大会

（兼全日本女子学生剣道選手権大会予選）

優勝 岩間 葵（中京大）

準優勝 出雲梨沙穂（愛学大）

第三位 山田 悠花（星城大）

第三位 竹下 思美（中京大）

第七十一回東海学生剣道優勝大会

（兼全日本学生剣道優勝大会予選）

優勝 朝日大学

準優勝 中部学院大学

第三位 中京大学

第三位 星城大学

第四十七回東海女子学生剣道優勝大会

（兼全日本女子学生剣道優勝大会予選）

優勝 中京大学

準優勝 愛知学院大学

第三位 常葉大学

第三位 星城大学



女子選手権ベスト4



男子選手権ベスト4

地区だより

【尾張剣道連盟】



尾張放心会
事務局長
鶴見 好三

高齢者剣道「尾張放心会」紹介

△発足の経緯▽

平成二十三年四月二日、石井輝夫先生の呼びかけにより、尾張地区の先生方約三十人が集まり、会長・内田武夫、



東海四県高齢者親善剣道稽古会

これまでの活動の中で、都地学先生が平成二十八年、高山潤一先生が令和五年に見事

副会長・山本允閑、事務局長・石井輝夫、会計・鶴見好三を役員として、会の名称を「尾張放心会」と定め活動を開始した。第二・第三水曜日の午前十一時から午後一時まで江南武道館を拠点として稽古を行っている。

△現在の活動▽

現在、会長・中川治彦、副会長・加藤隆、事務局長・鶴見好三、会計・眞野隆雄が役員を務め、約六十名（内女性八名）の会員が、「何事にもとらわれず、自分の求める剣道を目指そう」「お互いを尊敬し、無理をせず健康に気を付け、生涯剣道を目指そう」をモットーとして稽古に励んでいる。

△記念誌の発行▽

平成三十年四月、会員が元気づけようとそれまでの活動をまとめた約四十ページの記念誌を発行した。



江南武道館での稽古風景

八段に合格され、藤井愛子先生が令和五年、三宅美穂子先生が令和六年に七段に合格されたことは放心会にとって特筆すべき出来事である。

△錬成会・稽古会への参加▽

会の発足後、他地区のみならず他県からも声をかけていただき、現在では左記の各行事に放心会有志が参加している。

○下呂温泉シニア剣道錬成会

○東海四県高齢者親善剣道大会

○犬山・各務原交流稽古会

○奥飛騨温泉郷合同錬成会

○西三河合同稽古会

△ねんりんピックへの出場▽

放心会所属の先生方の出場は左記のとおりである。（敬称略）

石井輝夫、中川治彦、小山宗章（H21）、西岡喜代一、中川治彦、

小山宗章、水野友記（H23）、松元正信、戸田治夫（H24）、

大森定、稲垣康秀（H27）、小山宗章、稲垣康秀（H29）、川

田秀幸（H30）、恒川敏明、川田秀幸（R6）

△おわりに▽

令和五年には愛知県高齢剣友会が発足し、放心会としても積極的に参加、また他県との交流も深め「交剣知愛」の生涯剣道に精進したいと会員一同頑張っております。

おわりに会の紹介の機会を与えていただいた愛知県剣道連盟に感謝申し上げます。

問合せ先・放心会事務局

090-4862-7693 鶴見



令和6年1月10日 稽古始め

【名古屋市剣道連盟】



名古屋市剣道連盟
事務局長
白石 裕章

令和六年七月四日(木)より七日(日)まで、イタリアのミラノにて、第十九回世界剣道選手権大会が開催されるにあたり、東 良美範士が日本男子チームの監督として、山崎 尚範士が全日本剣道連盟からの派遣審判員として選任されたことから、同年六月十六日(日)午後六時より、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋において、名古屋市剣道連盟主催による東 良美範士 山崎 尚範士第十九回世界剣道選手権大会壮行会(以後「壮行会」)が盛大に挙行されました。

まず、壮行会を催すにあたり、実行委員会を立ち上げました。メンバーは、尾野博之理事長、平井道典副理事長、田村彰浩氏、丹羽良平氏、白石裕章事務局長の計五名にて素案を作成しました。内容としては、会場決め、来賓の確認、当日の流れおよびイベント企画等原案を作成し、臨時開催の常任理事会にはかり、承認を得た後、松本健一郎会長に趣旨を伝え、了承を得た上で、具体的な準備に取りかかりました。まず、当日の流れの中のイベントと



して、和太鼓演奏の披露を推し進め、「転輪太鼓」の代表である打激師の国分入道光雲氏との事前打合せを行いました。また、会場となるANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋の使用会場の下見やコース料理および飲物や当日の流れやイベントの催し方法や太鼓の設定等についての打合せにより確認しました。

以後の準備としては、来賓への会のご案内、名古屋市剣道連盟に係る役員、諸団体へのご案内に加え、愛知県剣道道場連盟、県高体連等にも協力いただきました。ご案内に対して、ご出席のご返事を多くの方々からいただくことになり、ご来賓として十五名、名古屋市剣道連盟からは役員九名、名

古屋市各区の剣道連盟から六十四名、諸団体から八十一名、市外からのご参加を含め、個人でのご参加が九名、事務局二名を合わせて、百八十名の出席のご返事をいただきました。そのため、当初予定していた会場を広げることにになり、大きな催しとして当日を迎えることになりました。

当日は、多くのご出席者で混雑により受付時にごった返すのではないかと心配されたものの、来訪された方々のお心遣いにより混乱なくスムーズなものでした。

いよいよ壮行会の開始時刻になり、ご出席の皆様が席につかれ準備が整うと、会場の照明が消され、準備されていた大きな和太鼓を叩く音が響き、オープニングとなりました。シーンとした会場が太鼓の音に包まれ、壮行会が始まりました。

まず始めに、松本健一郎名古屋市長が壮行会会長がステージに登壇し、挨拶がありました。

続いて、ご来賓いただいた方々の紹介の後、ご来賓を代表して、大嶽將文一般財団法人愛知県剣道連盟会長からお祝辞をいただきました。

次に、東 良美範士、山崎 尚範士にご登壇いただき、記念品および花束贈呈と続きました。東範士につきましては、壮行会当日の午前中まで選手の強化を終えたばかりにもかかわらずご出席をいただき、謝辞および選手の強化の様子などこれまでの強化の状況を



お話しいただきました。山崎範士も、講師として講習会を終え奈良から駆けつけていただき、謝辞および世界各国から派遣された審判員とともに参加された研修会の様子などお話しいただきました。

次に、尾野博之名古屋市長道連盟理事長の音頭で乾杯の発声により、太鼓の音が場を盛り上げてくれました。

次に、この会の目玉でもあるアトラクションとして用意された和太鼓演奏「転輪太鼓」が披露され、会場が太鼓の音に包まれ、鑑賞している出席者の魂を揺さぶるような素晴らしい演奏でした。

予定していた時間があっという間に過ぎ、お開きの時間となったところで、小栗成男NTPホールディング代表取



締役社長(現OGURIZM Corp. President & CEO)による君が独唱のサプライズに会場が驚きと喝采の完成に沸き上がりました。
安保 正名古屋市剣道連盟副会長により中締め挨拶で大変な盛り上がりを見せた壮行会の宴が閉じられました。

この度の壮行会を開催するにあたり、一般財団法人愛知県剣道連盟始め、各地区剣道連盟、愛知県剣道道場連盟、愛知県高等学校体育連盟剣道専門部、愛知県中小学校体育連盟剣道部等、関係の方々の多大なるご支援ご協力をいただきましたことに衷心より感謝申し上げます。

【西三河剣道連盟】



西三河剣道連盟
前事務局長
手嶋 道雄

新設

西三河小学生剣道選手権大会

西三河剣道連盟では、第五十回段別選手権大会(中学生以上)は令和六年八月二十五日に開催、九部門を設定し四百十二人の選手参加を得ました。

しかし、開催以来この選手権大会には小学生は対象外でありました。このことについて、西三河剣道連盟大会委員会が中心となり、小学生も選手権大会にエントリー希望の声も上がり、「既存大会と同等に事業に参加経験を得る事も大切」として、運営委員会(上部組織)に諮り審議の結果、承認され新



規事業として新生スタートしました。第一回西三河小学生剣道選手権大会には、三百七十二名の参加(一年〜六年生九部門)となりました。

この日(令和六年十月十四日・祝)はコロナ感染対策もやや緩和され家族の会場入りも可能とし、久しぶりに賑やかな大会となり会場の雰囲気も明るく活気が戻ってきた印象を感じました。しかし、以下の動向から今後中部活動について要注視の一二年となるでしょう。

中部活動が地域移行によって指導する立場を受け持つ私たちには今まで以上に幼少年・少女への対応力が求められ、指導技術力、知識、包容力など少年・少女への対応責任問題も求められるでしょう。しかし、何と言っても子どもたちの醸し出す魅力は無限に素

晴らしい。

大切に育成し大人社会に疑問を残さないように剣道連盟の責任役割も膨大に増してくるのでは、と気持ちを引き締めて対応し、この子たちが将来、剣道を続けてきて良かった。

と言ってもらえるよう、また、先を見据えた将来の連盟運営の要となつていただけることを願っています。

【東三河剣道連盟】



東三河剣道連盟
事務局長
夏井 善久

審判講習会

毎年、実施される審判講習会。今年度も地区の中学生や高校生に協力をしてもらい実施しました。講師には菊池勝美七段にお願いし基本的な所作の確認から、実際の場面での動き、立ち位置の確認や有効打突の有無などを実施しました。生徒には実践形式での稽古をお願いし、有効打突の共通理解、判断すべき内容の徹底などを稽古が途中で止まる状況であっても確認しながら審判技量の向上を目指して実施をしました。本年度も、昨年同様の五十名弱の参加者でありましたが、今後も講習

会の開催数を増やしたり内容の充実を図ったりしていきたいと思いました。

「武徳祭剣道大会」の実施

本年度も東三河剣道連盟主催の武徳祭剣道大会を実施しました。昨年課題として取り上げた、剣道人口の減少を考慮し、参加可能人数を増やすことから実施しました。今回は各団体三名の参加者枠を四名と増やして実施しましたが、結果昨年は六百三十一名の参加者に対して六百名の参加となっていました。少年三十団体、中学四十五団体、高校十九団体、一般二十団体の参加で尚且つ中高生に至っては、男女別、学年別の実施としていましたが、約三十名の減となりました。今後は中高生がより参加しやすくなるよう実施の時期や在り方などを工夫し、多くの

子供たちが経験を積めるよう考えていきたいと考えます。

各地区・高齢者の活動

新城地区では、今泉会長のご指示のもと少年剣道の充実や普及を目指し、研修会や講習会、指導会を実施しています。多くの子供たちに剣道の楽しさや、面白さをしてもらうために、地域の剣友の皆様が丁寧に指導されています。

高齢者の会も盛んにおこなわれています。毎月、第二、第四の土曜日を中心に豊川市剣道連盟、さつき会剣道クラブを午前十時半より一時間の日程で実施。また、東三河高齢者稽古会を月に一回、水曜日を中心に午前中一時間程度の稽古会を実施しています。熱心

に参加される方では、稽古の一時間前には来られて形稽古を行われる方も多く見えます。

【尾南地区剣道連盟】



尾南地区剣道連盟
事務局長
高橋 猛敏

本連盟の年間行事を剣道の参加者数の変化を中心に述べたいと思います。

一 審査会

① 級審査会

少子化の波は、剣道でも例外ではなく、受審者は年々減少しており、令和五年度と比較すると二十%減となっています。今後さらに減少が予想されます。このままだと連盟の運営に支障をきたす恐れがあり、実施回数の統合を含め、改善策を検討する時期にきていると思います。

② 段審査会

級審査会と同様、受審者数は級審

級審査会



査会ほどではないものの減少の傾向にあります

二 剣道大会

①六月、小中剣道大会（個人戦）

参加者、令和五年度より五％減

（二十六名減）

②九月メディライフ杯（マスターズ大会・個人）

メディライフ様の全面的な支援で行っています。参加者は令和五年度とほぼ同数です。これは、参加資格を三十才以上と限定しているのので、少子化の影響が少ないかと思われます。尚、令和七年度は二十回目となります。記念大会として実施する予定です。

③十月 高校二 一般剣道大会（団体戦）

女子は三人制で実施しているため、また、同じ団体から複数参加可能にしているためか、参加数は令和五年度とほぼ同数です。

④二月 小中学生剣道大会（団体戦）



級審査会



高校一般大会



メディライフ杯

②八月
一、二年生を対象に各中学校から一、二名を選

以上、主に昨年度と比較しながら述べましたが、少子化、中学校部活の外部委託化、体育館等の会場確保の困難さ等問題が山積しています。よりよい方向を目指して対応をしていかなくてはいいと考えています。

参加団体数は令和五年度と比較すると十団体、十三％の減少です。大会の上位入賞者（団体）を県大会へ推薦しています。

三 指導者講習会

①七月

居合道の講話に始まり、県の伝達・審判講習を中心に級審査員候補者向けの講習、形講師候補者向けの講習と限られた時間の中で行っています。

①二月

一泊稽古会の開始前の時間を利用して、午後すぐに級審査会の審査員候補者向けと形講習会の形講師候補者向けの講習を行っています。

四 一泊稽古会

二月、南知多町総合体育館にて稽古会、その後後宿泊地にて懇親会、宿泊をしています。温泉で稽古の疲れを癒やし、懇親会やその後の懇談で交剣知愛を深め、楽しい、有意義

な時間を過ごしています。

五 合同稽古会

月一回、七時三十分より一時間ほど七段以上を元立ちとして稽古を行っています。八段の木下先生、関屋先生、外山先生、大崎先生も参加され、積極的に後進の指導をされています。参加者は四十名ほどです。

六 中学生強化練習会

①七月

郡大会上位入賞者を対象に、県大会に向けての強化練習会を一日日程で行っています。五十名くらい参加しています。

③居合道

六月に講習会を行った後、段外の部から五段の部の段別試合、模範演武を行っています。



七月講習会



二月講習会

抜して基本から試合稽古まで幅広く二日程で強化を行っています。六十名ほど参加しています。

七 その他

①中高年部会

月一回、剣道形、稽古を行っています。

参加者は平均二十六名ほどです。十月に一泊稽古会を実施し、試合や懇親会で親睦を深めています。

②女子部

年十回、内形稽古一回、十名から十五名ほど日本製鉄剣道場で稽古を行っています。

各種大会に出場し、優勝したこともあります。令和六年には創立三十周年記念行事を行いました。

生涯剣道

愛知県高齡剣友会秋季剣道祭

令和六年十一月七日名古屋枇杷島スポーツセンターにおいて、愛知県高齡剣友会の秋季剣道祭が開催された。当日は祝 要司剣友会会長をはじめ百名ほどの会員が集まり、親睦試合（地区対抗団体戦）や、会員相互が体調に留意しながらの地稽古で、心地よい汗を流した。筆者も会員の一人で毎回参

加しているが、会長を筆頭に事務局担当の小山宗章先生はじめ先達の先生方が準備万端を整えておられ、本当に感謝々々の剣道祭である。

なお、春季の剣道祭も開催されており、令和四年度に愛知県高齡剣友会発足以来、その年の秋季剣道祭が第一回の剣道祭、今季剣道祭は通算で第五回目となる。

（文責・写真撮影 榎本鐘司）



剣道祭準備風景



開会式



試合開始



参加者全員で集合写真撮影



稽古会（左は祝先生）



閉会式 優秀選手表彰

役

員

(令和七年六月十四日現在)

副会
会長相談
役参
与

瀧 東 松 水 細 伊 林 近 平 渡 白 山 内 後 北 菅 和 松 安 勝 稲 堀 丹 松 祝 大
 下 谷 川 藤 藤 原 並 井 本 田 藤 村 沼 田 本 部 股 吉 山 羽 本 嶽
 順 日 明 好 一 邦 勁 孝 允 武 英 幸 伊 秀 寿 健 正 健 要 將
 一 出 房 助 昌 彦 夫 助 稔 直 一 圀 夫 壽 豊 夫 功 武 利 彦 悟 治 則 郎 司 文

前 牧 長 山 小 上 大 中 竹 東 松 松 田 田 日 塩 都 安 木 杉 熊 高 渡 光 山 牧
 田 野 澤 口 山 北 河 内 川 味 本 岡 中 中 野 谷 地 保 下 浦 澤 山 邊 永 口 野
 新 孝 賢 和 宗 鞠 鉄 治 由 由 利 良 源 輝 隆 雅 洋 潤 昌 武
 吾 夫 治 義 章 也 彦 彦 登 美 子 幸 高 五 志 夫 厚 学 正 仁 人 二 一 香 勉 宏 賢

理
事
常
任
理
事
長理
事

正 小 成 岡 倉 森 河 野 山 東 森 日 北 平 畠 大 原 尾 穂 東 大 水 今 手 山 中 高 木 山 熊 今
 田 野 瀬 田 成 島 西 末 崎 園 置 村 井 山 田 田 野 園 崎 野 泉 嶋 口 村 旗 本 田 本 道
 哲 富 文 眞 健 直 敏 良 昭 介 真 道 隆 義 博 元 一 道 照 憲 豊 み 久 千 恵
 之 夫 浩 直 治 子 勝 郎 尚 美 俊 二 一 典 吉 弘 努 之 孝 良 保 隆 弘 雄 義 治 樹 き 夫 尋 子

監
事評
議
員

山 江 大 牧 白 稲 堀 榎 渡 高 水 平 安 加 久 小 中 祝 麦 井 小 白 二 田 成 内 中 長 石 神 勝 夏
 口 原 嶽 野 井 吉 山 本 並 橋 田 原 保 藤 保 山 川 田 出 島 石 橋 中 瀬 田 西 谷 原 谷 野 井
 照 清 將 孝 孝 健 鐘 猛 秀 多 宗 治 要 達 清 克 裕 勝 朋 信 幸 善 た 光 伸 善
 義 彦 文 夫 一 悟 治 司 直 敏 涉 稔 正 夫 加 史 章 彦 司 弘 昭 已 章 隆 明 恵 之 男 久 ま み 顕 太 郎 久



剣道五段 (令和六年四月二十七日)

(中村スポーツセンター)

館井 秀太 (25)	中村 匡志 (28)
榎本 峻久 (29)	磯貝 和寛 (32)
稲熊 充輝 (33)	稗田 大晃 (40)
橋野 早人 (46)	高木 孝二 (48)
林田 聡 (48)	仲宗根 亮 (48)
舟橋 克弥 (48)	長谷川 信一 (48)
前島 貴 (49)	小川 哲史 (54)
内田 一郎 (54)	稲垣 倫代 (57)
杉谷 峰男 (61)	高須 美雄 (66)

剣道六段 (令和六年四月二十九日)

(京都)

SARMA SIDDHARTHA (41)

田中 美枝子 (68)

居合道錬士 (令和六年五月三日)

(京都)

片桐 詩乃 (61)	安島伊津代 (66)
内藤 眞廣 (70)	浅井 俊秀 (73)

剣道教士 (令和六年五月六日)

(京都)

曾木 祐寿 (40)	脇蘭 豪 (41)
近藤 大希 (41)	鈴木 貴章 (41)
西山圭太郎 (42)	今津 斉 (43)
板倉 彰俊 (47)	清水 俊雄 (47)
稲吉 道雄 (48)	近藤 晶彦 (52)
木村 美紀 (52)	成瀬 文浩 (55)

剣道錬士 (令和六年五月六日)

(京都)

明壁 啓純 (56)	三浦 鉄也 (56)
梅村 知弘 (56)	青木 友邦 (57)
深見 知弘 (60)	杉江 広幸 (60)
笠井 紀明 (63)	後藤 祥文 (65)
村瀬 美貴男 (68)	

剣道七段 (令和六年五月十一日)

(枇杷島)

東 龍之介 (36)	鈴木 隆太 (37)
近藤 祐介 (38)	今泉 勇人 (40)
越前谷依子 (44)	小野 敏史 (44)
笹谷 朋良 (47)	福田 真也 (47)
鈴木 章博 (48)	岩元江理子 (48)
丹羽 良平 (48)	岩元江理子 (48)
熊谷 照平 (54)	久世 誠 (56)
大角 隆二 (56)	辰巳 強 (57)

剣道六段 (令和六年五月十二日)

(枇杷島)

岩越 伸智 (60)	加藤 孝浩 (60)
堀場 正樹 (60)	伊奈 正樹 (60)
菅谷 克巳 (62)	長尾 浩司 (63)
岡 克明 (68)	加藤 弘 (70)
中山 正次 (72)	余語 修 (73)
三宅 通裕 (76)	松本 勉 (78)
信田 和子 (79)	

剣道六段 (令和六年五月十九日)

(北海道)

高須 隼人 (40)	
------------	--

居合道七段 (令和六年六月二十八日)

(福岡)

戸谷 高 (40)	石田 理永 (54)
渡曾 道子 (64)	

剣道八段 (令和六年八月十日)

(枇杷島)

清水 基史 (49)

剣道八段 (令和六年八月十一日)

(枇杷島)

大崎 保 (81)

剣道五段 (令和六年八月十二日)

(枇杷島)

小野功太郎 (24)	茅根 颯人 (26)
本多 康生 (28)	神野 大輔 (29)
岸田 直人 (30)	新海 弘明 (34)
森川 伴幸 (38)	筏津 泰造 (39)
陸 大輔 (46)	宮里 大介 (46)
舟橋 恭代 (48)	亀井 康之 (49)
杉浦 正樹 (50)	石井 清 (50)
中野 敬太 (51)	吉田 行広 (54)
下柳 雄二 (55)	新谷 昌則 (60)
野尻 賢哉 (65)	高田 岳 (68)
伊藤 英二 (74)	

剣道七段 (令和六年八月二十四日)

(宮城)

松田 厚範 (62)

剣道六段 (令和六年八月二十五日)

(宮城)

岡本 直子 (37)

剣道六段 (令和六年八月三十一日)

(福岡)

藤原 郁哉 (30)

剣道七段（令和六年九月一日）

（福岡）

山崎 圭司(45)

居合道五段（令和六年十月六日）

（枇杷島）

足立 裕信(68)

剣道七段（令和六年十一月九日）

（枇杷島）

今井 新流(36)

大喜多正毅(47)

河原 典幸(50)

奥村由紀子(52)

三宅美穂子(56)

竹内 幸子(57)

牧野 有洋(59)

加藤 佳彦(61)

杉山 幸治(61)

星野 輝人(64)

鈴木 康元(65)

近藤 誠一(68)

剣道六段（令和六年十一月十日）

（枇杷島）

倉成 将寛(28)

植田 哲平(31)

佐藤 傑(31)

宮内 優志(33)

山下 歩夢(35)

河合 祐輔(36)

群元 佐知(39)

若山 和将(41)

田原 孝紀(44)

岡田 峰宏(46)

大野 大輔(48)

馬場 義明(49)

荒川ひとみ(49)

辻 文子(49)

森田ちさと(52)

萩野 武男(54)

尾崎 正典(55)

堀田 幸道(56)

間瀬 計行(59)

駒木 博之(61)

鈴木 隆仁(63)

鈴木 忠俊(67)

田中 純(70)

森 裕那(22)

原田 匠麻(24)

今枝 亮太(25)

尾崎 直也(28)

武田 旭浩(30)

谷井 勇介(40)

細野 晃弘(47)

植村 裕美(49)

山田 高資(52)

日比野紀仁(54)

水木美奈子(56)

田中 健司(61)

木村 修(67)

鈴木 幸一(74)

剣道教士（令和六年十一月二十六日）

（東京）

平松 俊祐(42)

浅井 康伸(47)

林 隆司(52)

森下 美鈴(53)

白井 雅子(60)

恒川 敏明(64)

吉田 敏昭(65)

橋本 孝則(68)

金井 一泰(74)

栗栖 孝明(30)

田村隆太郎(31)

宮内 壮太(31)

金田 匡嗣(34)

星野 竜(36)

西川 真平(37)

山野井宏晃(42)

久野 静代(45)

田口健太郎(47)

河崎 裕介(50)

杉山 玲(53)

恒田 泰宏(54)

尾崎 清和(54)

徳永 敬(56)

野末 英明(67)

浅倉 靖雄(70)

大西 慶一(74)

居合道教士（令和六年十一月二十六日）

（東京）

東 朱美(67)

居合道錬士（令和六年十一月二十六日）

（東京）

山口 貴史(47)

杖道教士（令和六年十一月二十六日）

（東京）

小崎 順一(76)

居合道七段（令和六年十一月三十日）

（東京）

浅野 匡弘(39)

居合道六段（令和六年十一月三十日）

（東京）

竹内 淳(52)

居合道五段（令和七年一月二十六日）

（天白）

山口 優季(29)

伊藤 由介(62)

剣道六段（令和七年二月二日）

（福岡）

岡田千恵子(56)

剣道七段（令和七年二月十五日）

（山梨）

外城 敏光(41)

世古 一行(66)

剣道六段（令和七年二月十六日）

（山梨）

新井 基生(31)

河合 真希(38)

西尾 真(60)

居合道六段（令和七年三月二日）

（京都）

吉村 純司(34)

谷川 秀彰(60)

居合道七段（令和七年三月二日）

（京都）

宇田アレシヤンドレ(49)

杖道五段（令和七年三月九日）

（天白）

日野 龍仁(43)

永田 敬生(61)

女性剣道七段誕生

×××七段合格者の紹介×××

剣道一筋

奥村 由紀子
(尾張)

令和六年十一月の七段審査会にて合格させて頂きました。

私は幼いころからピアノが好きで、大人になっても弾き続けたいと練習に励んでいました。然し、運動部にも憧れがありました。中学で部活動選択の折、ピアノを続けるなら球技は避けたほうが良いとアドバイスされ、迷った末選んだのが剣道部でした。

同時に近くの道場（誠武館）へも通い始めました。

積極的ではない剣道との出会いでしたが、今に繋がる大きな選択でした。道場では館長先生をはじめ、多くの先生方の適切なご指導とその気にさせる褒め言葉で高校生になる頃にはすっかり剣道大好き女子となっていました。

ただ、「剣道一筋」という環境に身を置いた事はなく、ただ剣道が好きで道場に通っていた為、試合数やけいこ量が少なく、剣友も多くはありませんでした。三回目の四段審査の折、思い切って愛知県剣道連盟の女子部稽古会に参加させていただいてからは、剣道

すっかり学ぶ女性方に出会い、自分も頑張ろうと思うようになりました。

先代館長である伊藤忍先生、現館長の伊藤太先生には本当に大切に育てて頂き、また、同門の先生方にも多大なご指導と助言を頂きました。

今まで剣道を続けてこられたのは沢山のひととの良い出会いに恵まれたからと感謝しております。今後は沢山の子供達と剣道を通して関わり、楽しさを伝えながら私自身も剣道を長く続けたいと思います。

堅忍不拔

田中 有理
(尾張)

令和六年二月、長野県開催の審査会において七段に合格させて頂きました。

した。

少年サンデーに連載されていた「六三四の剣」に衝撃を受け、小学校二年生から剣道を始めました。六三四の練習をまねしていたことなどが懐かしく思い起こされます。

剣道を通して多くの人と出逢い剣を交え。お酒を酌み交わした事。そして、たくさんのご指導をいただいたこと。そのすべてが今の自分をつくっているといっても過言ではありません。時に厳しく、時に優しく関わっていただいた方々に深く感謝しています。

教師としての仕事をこなしながら、稽古の時間を生み出すことは、とても大変でした。

また、「七段合格」は、大きな目標でした。達成に向けて行動するしかないとしたこと、今まで時間をかけていた仕事にも自然と集中することができました。

その時間を稽古に割くことができた。できない言い訳を考えていた自分が、そこで消えたように思います。

緊張からか、立ち合いの記憶は、ほぼありません。しかし、あとから動画を見ると苦しい稽古に耐えて培ったことが表れていたのが本当に嬉しかったです。今後もさらに精進し、剣道発展のために子どもたちに剣道を教えていきたいと思っています。

本を読む・素振り・イメージトレーニング

三宅 美穂子
(尾張)

令和六年十一月の名古屋の審査会で剣道七段に合格させて頂きました。

五段、六段の昇段審査は何度も挑戦し苦しんだ中での合格だったので、私は七段を受審することは無いだろうと思っていました。

小学生の頃から今までずっとご指導頂いている剣道八段の松下明房先生が居合道も八段に合格され「次は三宅の剣道七段だな？」と言って下さいました。その言葉で「剣道七段」挑戦への決意が出来ました。

家族に無理を聞いてもらいながら稽古会にはできるだけ参加し、地域を越えて多くの先生方にご指導頂きながら週三回の稽古を四回・五回と増やしていききました。

先生にいつも言われていた「本（剣道関係）を読むこと」「毎日欠かさず素振りをすること」「イメージトレーニングをすること」の大切さを今更ながら実感致しました。

目標としてきた七段合格は私に取って大きな成果ですが、剣の修業はまだ

まだ続きます。これからも正しい剣道と風格を身に着けられるよう日々稽古に励んでいきます。

形審査の時、女性の先生方が多数いらっしやいました。益々女性七段剣士が増えること、そして女性剣道八段が誕生することを心待ちにしています。

師より教えられた「心」を糧に



越前谷 依子
(尾張)

当日は、家を出る時から勝手に涙が溢れ、会場では涙目の私を見た知人から「大丈夫!？」と声を掛けられてしまう程の状態でした。「これで落ちてもこれ以上は頑張れない」という気持ちを抱えて審査に挑みました。学生時代、剣道部に所属しなかった自分の「絶対的な稽古量不足」を補うため、五段合格後は「稽古を休まない」ことを決め、直近の二年は週五〜六日に稽古を増やしました。秋の七段審査で一度落ちた時には「これでも足りないのか」と落胆しましたが、唯一空いている曜日で稽古ができるところを紹介していただき、毎日稽古に行きました。出来る限りの精一杯で剣道と自分に向き

合ったつもりです。

今回の審査では皆さんに「いい立ち合いだった」と声を掛けていただくことができました。自分としても、初めて納得のいく立ち合いになったと思います。こう思うことが今はとても幸せです。

小学二年から東京で剣道を始め、四年の夏に愛知に。今の私があるのは所属した其々の道場で『武道』の『心』を見せて下さり、剣道への向き合い方を教えて下さった『師』に恵まれたからだと思います。私の目標はまだ上にある。こう思えることもまた幸せなことだと思っています。

昇段にあたりご指導下さった先生方、不器用な私に付き合ってくれて稽古を共にしてくれた友人達に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後精進して参りますので宜しくお願ひ申し上げます。

周りの方々のおかげ



小口 宏美
(尾張)

令和六年十一月、枇杷島スポーツセンターでの七段審査会において昇段さ

せていただきました。ありがとうございます。

高校で剣道を始め、大学まで続けましたが、卒業後は十五年程離れていました。再開しても昇段ということはまるで頭になかったので七段というのはまだ夢のようです。

九月半ばに突発性難聴になり左耳が聞こえなくなり、めまいと吐き気に悩まされました。日常生活も不安な中、仕事と剣道ができるか医師に相談したところ、「仕事はできそうならやつてもいい、剣道はやってみてもいいけど頭はたたかれないで。」と言われました。十月に入り基本打ちの稽古と素振り、剣道形等の一人稽古の工夫もしました。それでも、稽古不足の不安が消えない中、審査会前日には左手小指の骨折も判明しました。しかし、これで開き直ることが出来ました。当日は誰よりも大きな声で攻める、打ち切ることを意識し、自分の力以上の立会いをする事が出来ました。これも、ご指導いただきました諸先生方、高校大学の先輩後輩、剣道の基礎を作ってくださった高校の恩師、それと一緒に稽古をしてくれる仲間たちの存在のおかげです。そして、いつも私の剣道に理解と応援をしてくれた息子たちにも感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ足りないところはたくさんありますが、

七段に相応しい剣道とご恩返しが出来よう精進していきたいと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

交知知愛の精神で



松田 麻希子
(西三河)

令和六年十一月枇杷島スポーツセンターで行われた七段審査で合格させていただきました。ご指導頂いた先生方、一緒に稽古をしてくれた剣士の皆様に深く感謝申し上げます。

就職で中断していた剣道を再開したのは十七年ほど前で、当初は運動不足解消として稽古を続けていて、七段審査を受けることは現実味がありませんでした。しかし、西三河や県の女子部の稽古会に参加すると、多くの女性剣士が家庭や仕事と剣道を両立させ、昇段審査にも挑戦していて、私も将来七段に挑戦したいと思うようになりました。多くの先生方にアドバイスをいただいたり、一緒に昇段を目指す人同士で意見を交換したり、七段を目指す中

でまさに交剣知愛を実感することができました。

一度は辞めていた剣道を再開することとで世界がぐっと広がりました。高校生の時に一緒に試合に出ていた同級生や、大学の剣道部の同期にも再会することができました。今回幸運にも七段に合格させていただきましたが、まだまだ上達したいし、多くの剣士の方々と剣を交え切磋琢磨したいとさらに強く思うようになりました。そのためには心身の健康に気を配り、無理はせずでも挑戦する心は忘れず、一日でも長く剣道をしていきたいです。これからご指導の程、よろしくお願いいたします。

剣道七段合格しました。



信田 和子
(西三河)

二〇二四年五月、枇杷島スポーツセンターにて、七十九才二ヶ月で合格させて頂きました。七十二才で六段を頂いた時、七段はないだろう、私、七十八才になっている。この膝では剣

道を続けていないかも。六段受審中に、両膝半月板損傷になり、杖をついて歩く状態でした。六年後の私はどうなっているだろう。六年後が来ました。

私剣道を続けている。八月から受ける。又ドキドキと緊張が始まりました。何を稽古すれば良い？どうすれば良い？面打ちしかできない私です。ならその面打ちを、確実なものにしようと思い、先生方、女性剣士の皆様方に、面打ちの稽古をさせて頂きました。五月十一日、十時審査が始まりました。ぎこちない蹲踞の後「始め！」の声を聞いた後の記憶がありません。「やめっ！」の声で終わっちゃった、と思ったことだけです。合格者発表、二〇一〇、ありました。私の番号、何度も確認しました。今回高齢者から始まる審査方法は、私にとってもとてもラッキーでした。一番始めに、審査員の先生方に見て頂けたからです。形審査会場で「良かったよ」と声をかけて下さった先生の言葉で、面打ちができていたんだ。良かった！、嬉しくなりました。先生方、皆様方のお陰です。ありがとうございました。これからは、ゆっくり、楽しく剣道を続けていこうと思います。恩返しもしなければなりません。先生方、女性剣士の皆様方、教室の子供剣士達、もう少し一緒に稽古をさせて頂下さい。

基本打ちの大切さ



原田 利恵
(東三河)

令和六年十一月九日 枇杷島スポーツセンターにて行われた七段審査会において昇段させていただきました。ご指導いただきました先生方、先輩方、剣友の皆様方に心から感謝し、お礼を申し上げます。

コロナ禍、稽古に行けない時期がありました。収束に向かい受審を志すようになり稽古会に参加する中で基本が出来ていない事に気が付きました。足の運び、竹刀の持ち方、振り方など、目から鱗の事ばかり教わり、面・小手・胴の打ち方が分からなくなりました。手足がばらつき、体が前へ動かず、基本が身に付くまで繰り返し練習です。上手く出来ず、反省を吹きながら中途半端な打ちで終わる事が続きました。先輩より「ブツブツ反省しないで打ち切る」と助言していただき、ネガティブな思考は捨て、打ち切る一本を目指しました。

審査会では有効打突でなくても打ち

切る事を大切に挑みました。合格を頂きましたがまだ出来ない事が多く、道半ばです。先生方に指導を仰ぎ精進してまいります。無理せず健康と体力の維持に努め「生涯剣道」を目指します。

感謝の七段



岩元 江理子
(東三河)

令和六年五月、名古屋で行われた七段審査会で合格させていただきました。

これまでご指導していただいた先生方、剣友、家族の励ましのおかげです。心からお礼申し上げます。

七段受審資格を得る一年前から体調を崩し、三年ほど剣道から離れていました。

このまま剣道ができなくなってしまうかもしれないと諦めていましたが、体調も徐々に落ち着いたこともあり、目標だった七段に向け稽古を始めました。

七段に合格するまでの稽古は、正直つらいことの方が今思えば多かった気

がします。

先生方にご指摘されたことが思うようにできず、悔しくて稽古帰りの車の中で涙を流すこともありました。ここまですて受審するべきなのか…と考えたこともありましたが、それでも諦めずに続けてこれたのは、熱心にご指導してくださる先生方、励まし続けてくれた剣友、家族の気持ちに応えたい…その気持ちだけでした。

当日の審査では、先生方の教えを思い出し、自信をもって堂々とした立ち合いが出来たことが合格につながったのではないかと思います。

自分自身まだまだ未熟ですが、精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

出会いに感謝



久保 美栄子
(東三河)

令和六年十一月に行われました、七段審査会にて合格させていただきました。

私と剣道との出会いは、決してポジ

ティブなものではなく、中学時代、他の部活動の入部テストで不合格となり運動部なら何でも…と剣道部に入部しました。しかし、中学・高校・大学と良い師に出会い、お互いを高めあえる剣友と稽古をしていくうちに、剣道の楽しさ、奥深さを知り、剣道と真剣に向き合うことができました。今思えば、中学生の時に剣道部を選んでいなければ、これほど夢中になれる剣道に、そして、剣道を通じて知り合えた全ての人たちに出会えてなかったのではと思うと、不思議な縁を感じます。

昇段に向けて気を付けたことが2つありました。一つ目は、「攻め」です。私は、どうしても自分勝手な攻めになりがちでした。「ための意識」「相手を引き出す攻め」を考え、稽古に励みました。二つ目は、「打ち切る」です。残心までとよく言われますが、まさに、機会を捉えた攻めから、しっかり打ち切り残心まで。このことを何度も地元、東三河の先生方と稽古させていただいたおかげで七段に合格することができました。今回の結果に満足することなく、さらに精進し続けていきたいと思っています。

最後に、ご指導いただきました先生方、剣友の皆様にご心から御礼申し上げます。出会いに感謝です。

剣道・居合道・杖道

令和元年10月1日改定

段・級	審査料(円)	登録料(円)
8 ～ 2 級	1,100	2,200
1 級	1,100	3,300
初 段	2,200	5,500
二 段	3,300	7,700
三 段	4,400	9,900
四 段	5,500	12,100
五 段	6,600	18,700
六 段	13,200	44,000
七 段	15,400	66,000
八 段	19,800	99,000
称 号		
錬 士	19,800	55,000
教 士	27,500	77,000
範 士		105,000

※審査日前日までに、七〇歳になった方は登録料半額。
※四級以上の受審に際し、入会金(終身)八、〇〇〇円を納入して愛知県剣道連盟に加入しなければならない。



<http://www.aichi-kendo.jp/>

現在、各大会及び審査会の要項は、約二ヶ月前には当連盟ホームページに掲載しております。また大会申込書以外にも、審査会申込書、加盟（入会）手続書ダウンロード出来るようになります。大会結果、審査結果等は出来るだけ速い段階で掲載するよう努めておりますが、多少のお時間を要する場合もございますので何卒ご了承ください。

なお、全日本剣道連盟主催の大会結果や、審査会（六、七、八段、称号審査会）の合格者につきましては、全剣連ホームページに掲載後、当連盟ホームページに掲載いたします。

全剣連のホームページは当連盟のリンクページ、関連団体タブよりご確認いただけます。

また岐阜剣連、三重剣連、静岡剣連ホームページへのリンクもしております。

当連盟ホームページへのアクセスは『愛知県剣道連盟』で検索していただくか、上記アドレスを直接入力して下さい。

愛知県剣道連盟ホームページ案内

五地区剣道連盟所在地

尾張剣道連盟	理事長 穂 園 元 孝	事務局長 新 川 芳 朗
〒491-0903	一宮市八幡 4-1-28 一宮武道館内	TEL 0586-43-1023 FAX 同じ
名古屋市剣道連盟	理事長 尾 野 博 之	事務局長 白 石 裕 章
〒454-0022	名古屋市中川区露橋 1-31-20 富士美ビル 2-G	TEL 052-361-8073 FAX 同じ
西三河剣道連盟	理事長 大 田 義 弘	事務局長 成 瀬 文 浩
〒444-0038	岡崎市伝馬通 2-8 サカエヤビル 2 階	TEL 090-6350-3928 FAX 0564-83-6391
東三河剣道連盟	理事長 畠 山 隆 吉	事務局長 夏 井 善 久
〒441-0211	豊川市御油町河原畑 117 夏井様方	TEL 080-4535-2467 FAX 0533-88-6509
尾南地区剣道連盟	理事長 原 田 努	事務局長 高 橋 猛 敏
〒478-0024	知多市南粕谷 1-20-278 高橋様方	TEL 0569-42-0649 FAX 同じ

中日新聞社

成績の持参またはファックス先は以下の通りです。

◇本社（名古屋市中区3の丸1ノ6ノ1）
FAX 052(201)4331
問い合わせは 電話 052(221)0793

◇豊橋支局（豊橋市八町通3ノ91）
FAX 0532(54)4655

◇岡崎支局（岡崎市東明大寺町16ノ18）
FAX 0564(25)1554

◇豊田支局（豊田市美山町3ノ34ノ34）
FAX 0565(25)1118

◇一宮支局（一宮市大江1ノ13ノ13）
FAX 0586(72)5035

◇半田支局（半田市出口町1ノ45ノ18）
FAX 0569(23)2372

◇春日井支局（春日井市鳥居松町3ノ60）
FAX 0568(81)2797

読売新聞社

FAX 052(211)1085

取材に来てくれることもありますので、
先ず一報を

編集後記



本誌は、剣道・居合・杖道の会員皆様が一
度は掲載登場される機会のご紹介ページ（各
審査ご昇段・優秀戦績・各種催事・交流会）
など身近な出来事を広く会員皆様にお報せで
きると共に、各事業の活動結果掲載、歴史紹
介など掲載され武道知識の向上も興味持って
御覧いただける存在として情報・広報誌とし
てご愛読ください。

（広報委員 手嶋 道雄）

歴史記述は、多くは文献史料に基づく。し
かし、今回、新しい競技の防具の現物（遺物
史料）は、戦前の「小手」の有効打突部位の
歴史記述に、新たな知見を提供すると思う。
映画『七人の侍』は、何度観てもその度に
新たな感動を与えてくれます。今回、その一
場面が一宮市妙興寺に所縁があることを初め
て知り、感慨深いものがあります。

（広報委員 安田 徹夫）

市川 武利様（享年八十歳）
令和六年十一月二十八日ご逝去
剣道教士七段 県連盟参与
古賀萬須美様（享年八十二歳）
令和七年四月一日ご逝去
剣道教士七段 県連盟参与

計 報

広報・資料委員

（左から）

手嶋道雄委員、榎本鐘司委員、
穂園元孝委員長、安田徹夫委員

令和五年度から二年間にわたり、広報・資
料委員長として「観の眼」の作成に携わらせ
ていただき、文章及び言葉の難しさであり、
また各地区剣道連盟の素晴らしい取組み等
について学ばせていただきました。
第四十九号の作成においても会員の皆様方
に多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと
深く感謝しております。ありがとうございました。

（広報委員長 穂園 元孝）

令和7年度事業計画

一般財団法人 愛知県剣道連盟

12月			
全剣連・県剣連・地区剣連その他行事	場 所	時 間	
1月 ▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00	
2月			
3月			
4月			
5月			
6月			
7月 △県スポーツ少年団剣道交流大会	種町力電鉄児童シ		
8月			
9月			
10月 ▲監査			
11月			
12月			
13月			
14日 ▲県剣道稽古始め(剣・居・杖) ※第33回東海学連剣道大会	東 昭和	14:00	
15月			
16月			
17月			
18月			
19月			
20月			
21日			
22月			
23月			
24月			
25月			
26月			
27月			
28日			
29月			
30月			
31月			

1月			
全剣連・県剣連・地区剣連その他行事	場 所	時 間	
1月			
2月			
3月			
4日			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月 ※名北支部中学校1年生剣道大会	東		
11日 ▲県剣道稽古始め(剣・居・杖) ※名南支部中学校1年生剣道大会	霧橋 中	10:00	
12月			
13月			
14月			
15月			
16月			
17月 ●県本東第2ロケット講習会(17・18日)	額田市		
18日			
19月 ▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00	
20月			
21月			
22月			
23月 ●剣道八・七・六段審査会	東京都江戸川区		
24月 ●剣道中央・地区講習会(24・25日) ※第26回名古屋市長杯名古屋北剣道選手権大会	東京都江戸川区 東		
25日 ▲授業協力者養成講習会	霧橋剣道場	9:30	
26月			
27月			
28月			
29月			
30月			
31月 ▲屋合道・林道合同稽古会	霧橋剣道場、柔道場	13:00	

2月			
全剣連・県剣連・地区剣連その他行事	場 所	時 間	
1日 ▲愛知県女子剣道稽古会 ※第66回中部日本剣道大会	昭和 西尾市総合体育館	10:00	
2月 ▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00	
3月			
4月			
5月			
6月			
7月 ▲東海地区剣道合同稽古会	霧橋	15:00	
8日			
9月			
10月			
11月 ▲剣道称号選手会	愛知県武道館	9:30	
12月			
13月			
14月 ●剣道七段審査会	山梨県		
15日 ●剣道六段審査会 ▲林道講習及び審査会(感～五段) ※第12回東海高等学校剣道選手権大会	山梨県 昭和 関市	10:00	
16月 ▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00	
17月			
18月			
19月			
20月			
21月 ▲屋合道高松位愛審判講習会	霧橋	10:00	
22日			
23月 ▲第74回全日本都道府県対抗剣道選手権大会県予選会	枇杷島	9:00	
24月			
25月			
26月			
27日			
28月 ●剣道六審審査会 ▲屋合道・林道合同稽古会	額田市 霧橋剣道場、柔道場	13:00	

3月			
全剣連・県剣連・地区剣連その他行事	場 所	時 間	
1日 ●剣道七段審査会	額田市		
2月 ▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00	
3月			
4月			
5月			
6月			
7月 ○第27回全日本実業団女子・高学年剣道大会 ※第64回東海私立大学剣道選手権大会	東京武道館 緑		
8日 ●屋合道七・六段審査会 △第71回東海四県対抗剣道大会 △第56回東海四県対抗居合道大会	京都市 三重県鈴鹿市		
9月			
10月			
11月			
12月			
13月			
14月 ▲理事会 評議員会			
15日 ▲屋合道講習及び審査会(感～五段)	天白	10:00	
16月 ▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00	
17月			
18月			
19月			
20月 ▲第57回愛知県春季少年剣道大会	霧橋	9:00	
21月			
22日			
23月			
24月			
25月			
26月 ○第35回全国産業高等学校剣道選手権大会(26～28日) 春日井総合体育館			
27月 ○第48回全国スノーシュー少年剣道交流大会(27～29日) 富山県			
28月 ▲屋合道・林道合同稽古会	霧橋剣道場、柔道場	13:00	
29日			
30月			
31月			

備考 ●全剣連 ○全剣連間与 ▲県連 △県連間与 ※その他 ※日程、会場の変更もありますので、必ず開催要項を確認下さい。

名古屋…毎月第2月曜日・第4月曜日(19:00) 霧橋 尾南…毎月第1火曜日(19:00) 東海市体育館
西三河…毎月第1日曜日(19:00) 東三河…毎月原則第4土曜日(14:00) 豊橋市武道館 ※5、8、12、1月を除く

【資料室所蔵史料紹介】

・学校しない競技の防具

―面・胴当・右小手―

(水谷好助氏寄贈品)

戦後の愛知県剣道愛好者団体の変遷をたどると、ジャパニーズフェンシング協会→愛知県剣道競技連合→愛知県^{しんないきょうぎ}撓競技連盟→愛知県剣道連盟ということになるが、実際には、愛知県剣道連盟の設立後にも、撓競技の深化型ともいえる「学校しない競技」が、主として新制中学校以下の児童・生徒によって実施されていた。今回紹介するのは、この「学校しない競技」の防具の実物である。ただし、完品ではなく左小手のみが欠損している。



撓競技については本誌四十七号・四十八号にも述べてきたが、この競技は一九五〇年六月の「全日本撓競技連盟制定競技規約」の施行をもってスタートした。競技形態については『撓競技 規程の解説と基本』(一九五一年五月五日発行)に詳しいが、ここには使用された防具の写真が掲載されているので、まずそれを見てみよう。

この防具の解説には次のようにある。

(1)防具は面、胴当・手袋を用いる。



『撓競技 規程の解説と基本』
26 頁より

(2)面(マスク)は前面、側面も金網で作製したものを使用する。

(3)胴当(プロテクター)は布製の部厚なチョッキに堅板(鉄板或は竹製のもの)を縫着したものを着る。

(4)手袋(グローブ)は手首の長い堅板の縫着したものを用いる。

以上であるが、ここではメンの打撃部位は色で示され、ドウとコテの打撃部位は堅板の縫着部とされていることに留意されたい。

「学校しない競技」については、撓競技を創成した笹森順造先生を中心とした研究グループが、「剣道の復活」を見越して、剣道のジュニア型として、中等学校の体育教材への採用を意図し、性別を問わずに実施可能で、簡易性を備えたものとして整えられた。いわば撓競技の深化型である。その詳細は一九五二年八月一日に「文部省」から発行された『学校しない競技の指導の手びき』にある。当然「防具」についても言及されるが、次のような図

版が掲載されている。
この解説に

(1)防具は図の面、小手、胴当を用いる。

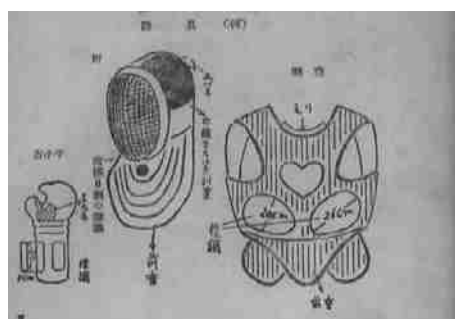
(2)各防具には一定の標識を縫着する。

(3)標識は図のように面部は^{けんこう}顴骨部より上位を白線、または色をもって区別し、胴当、小手は竹・金属またはファイバー製の堅板を使用する。標識の色彩は防具と明瞭に区別できるようにする。

とあり、撓競技の防具と比較すると、打撃部位の標識の規格化、明瞭化が図られている。



巻末に掲げた五枚の写真は、水谷好助先生から寄贈された防具の面・胴当・右小手を、角度を変えて撮影したものである。この防具が、「撓競技」ではなく「学校しない競技」の防具であることは、これまでに論述したことから明らかである。そして筆者には、この防



『学校しない競技の指導の手びき』50頁より

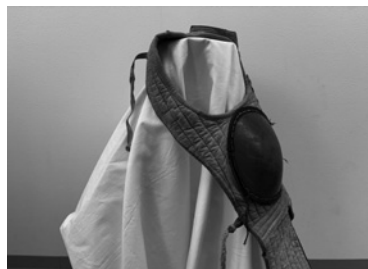
具が剣道の技術史を研究する者ばかりでなく、剣道実践者にも、ある種の(気づき)をもたらすであろうとの、予感めいたものが湧く。



1.「面」：裏面から撮影



2.「面」：正面から撮影



3.「胴当」 側面から撮影



4.「胴当」 正面から撮影



5.「右小手」 左上から撮影

・しない——中学校 長さ一一〇センチ以内 重さ三七〇グラム以内、高等学校 長さ一一五センチ以内 重さ三九〇グラム以内（大学生もこれに同じ）
・しないの先から、しないの三分の一のところの円状の線までを「打突部」とする。

右小手の打撃の標識の位置（写真5）に注目していただきたい。橈骨^{とうこつ}の上あたりに標識が縫着されている。右外側には標識はない。ここから、小手を刃筋正しく打撃することは高度な技であり、とくに「押え小手」〔補遺参照〕の技には俊敏で体軸の定まった体捌きが必須の要件である、ということに今さらながらに気づかされる。

学校しない競技における「しない競技規則」は、まず冒頭に「競技の概要」を「しない競技は所定の場所で、ふたりの競技者が、しな

うに規定した。

・しないの袋はじょうぶな厚地の布を用い、全長または小手留までをおおうこと。

・袋の先に、皮または厚地の布で作った袋（長さ三センチ以上）を用い、同じくしないの三分の一のところ（先から）に円状の線を設ける。

・しない——中学校 長さ一一〇センチ以内 重さ三七〇グラム以内、高等学校



いで定められた部位を互に打ち・突きしで得点を競う競技である」と明記した。そしてこれまでの撓^{うしろめ}競技の「撓」に改良を加えて、「しない」を次のよ

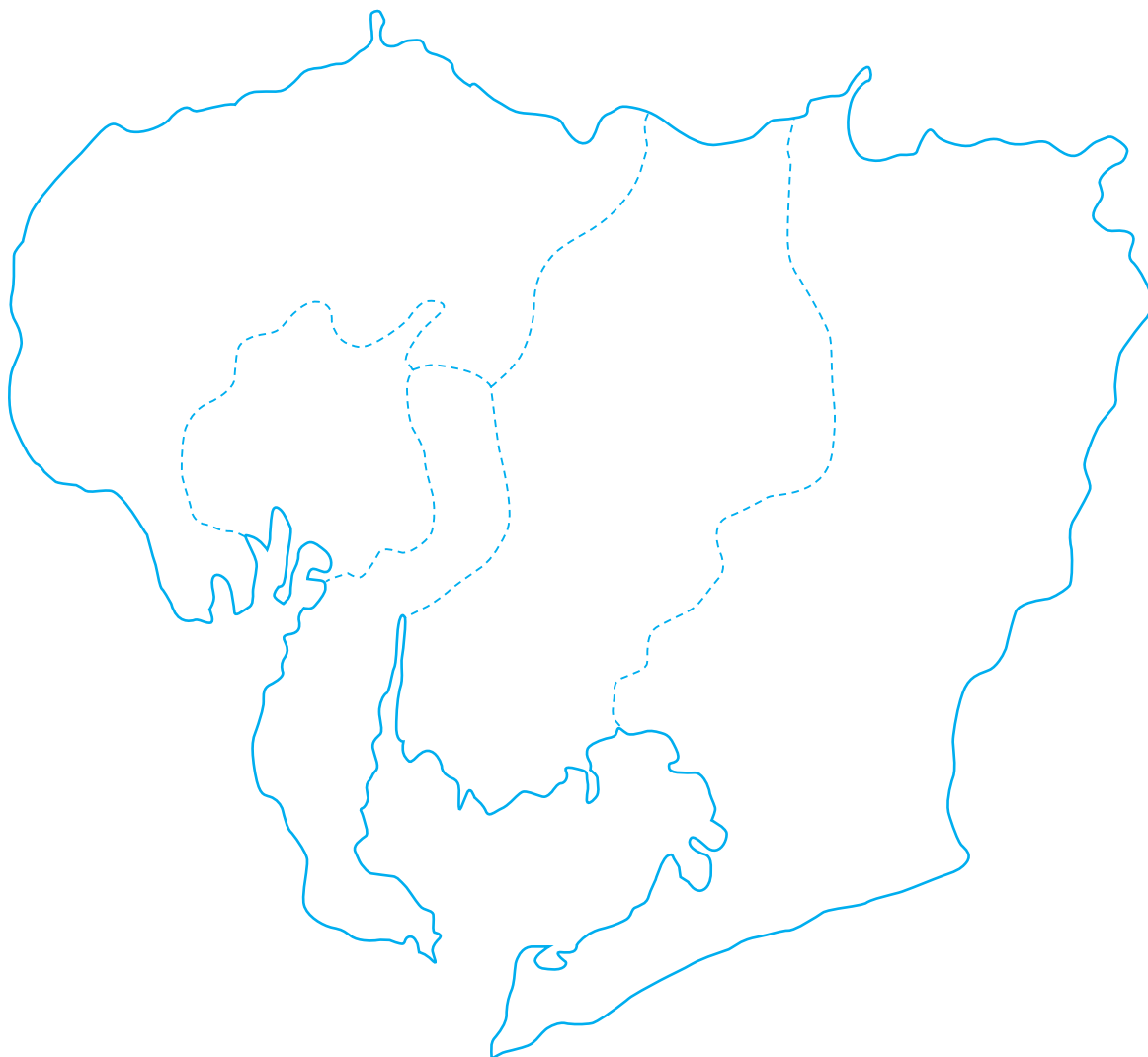
このように定めて、これまで最も問題となっていた有効打突、すなわち得点となる打突については、「しないの打突部位で打突したもの」かつ「各防具の標識内に、しないの打突部位が完全に触れていたもの」と簡潔に規定した。

防具の標識の規格化、「しない」の打突部の明確化、そして有効打突の明確化など、もう一つの剣道（学校しない競技→学校剣道）の理論と実技研究とに心血を注いで尽力された先達の方々に、深い敬意の念を抱くところである。

【補遺】

筆者は、技名称「押え小手」の意味内容を、例えば笹森順造著『剣道』（昭和三十年発行）にある「抑え小手 相手の打つてくるとき、体を左に寄せ速かに打ち抑える」技と理解しているが、本原稿の作成中にインターネット検索をしたところ、「押え小手」という技名称は出て来ず、仕掛け技としての「押えて小手」の技の解説が多く検索された。筆者の意図した「押え小手」の技名称は、現在の若い世代の剣道愛好者には通用しないかもしれない。ただし、文科省の指導要領には「面抜き小手」とする技が示され、筆者が言う「押え小手」の意味内容に近似した解説があった。

（広報・資料委員会委員 榎本鐘司）



広報「観の眼」第四十九号

令和七年六月三十日発行

一般財団法人 愛知県剣道連盟

〒453-0035

名古屋市中村区十王町十一番

二十二号

電話 〇五二四八一〇〇九三
FAX 〇五二四八一〇〇九五

題字・故竹田弘太郎名誉会長